

日本の食料システム法に基づき
地域ぐるみで
環境負荷低減に取り組む



モデル地区一覧

令和6年12月
農林水産省

モデル地区（特定区域）とは

みどりの食料システム法（※）に基づき、地域ぐるみで環境負荷低減に取り組むことが都道府県及び市町村の基本計画に位置付けられた地区です。区域内では、有機農業を促進するための栽培管理協定の締結や、特定環境負荷低減事業活動計画の認定が可能となることに加え、国庫補助事業の採択ポイントの加算等の優遇が受けられます。

【特定区域の取組類型】

- ・ 有機農業の生産活動の取組
- ・ 廃熱の回収利用等、温室効果ガスの排出量の削減に資する生産活動の取組
- ・ 先端的な技術を活用した生産活動の取組

※ 環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（令和4年法律第37号）

みどりの食料システム法に基づく基本方針 （環境負荷低減事業活動の促進及びその基盤の確立 に関する基本的な方針（抜粋））

環境負荷低減事業活動の促進の目標として、2024年までに環境負荷の低減に取り組むモデルを50地区創出することとする。

特定区域（ブロック別 令和6年12月時点）

北陸ブロック (8区域)

新潟県 新発田市★
阿賀野市★
佐渡市★
富山県 南砺市★
富山市★
石川県 白山市 (2区域) ★★
福井県 越前市★

東北ブロック (6区域)

宮城県 山元町★
美里町 (2区域) ★★
涌谷町★
山形県 西川町★
川西町★

北海道ブロック (3区域)

北海道 湧別町★
岩見沢市★
安平町★

中国四国ブロック (12区域)

島根県 浜田市★
江津市★
美郷町★
津和野町★
広島県 神石高原町★
徳島県 徳島市★
小松島市★
阿南市★
阿波市★
海陽町★
高知県 馬路村★
本山町★

関東ブロック (10区域)

茨城県 石岡市★
常陸大宮市★
栃木県 塩谷町★
千葉県 千葉市★
木更津市★
成田市★
佐倉市★
山梨県 北杜市★
長野県 佐久市★
静岡県 藤枝市★

九州・沖縄ブロック (6区域)

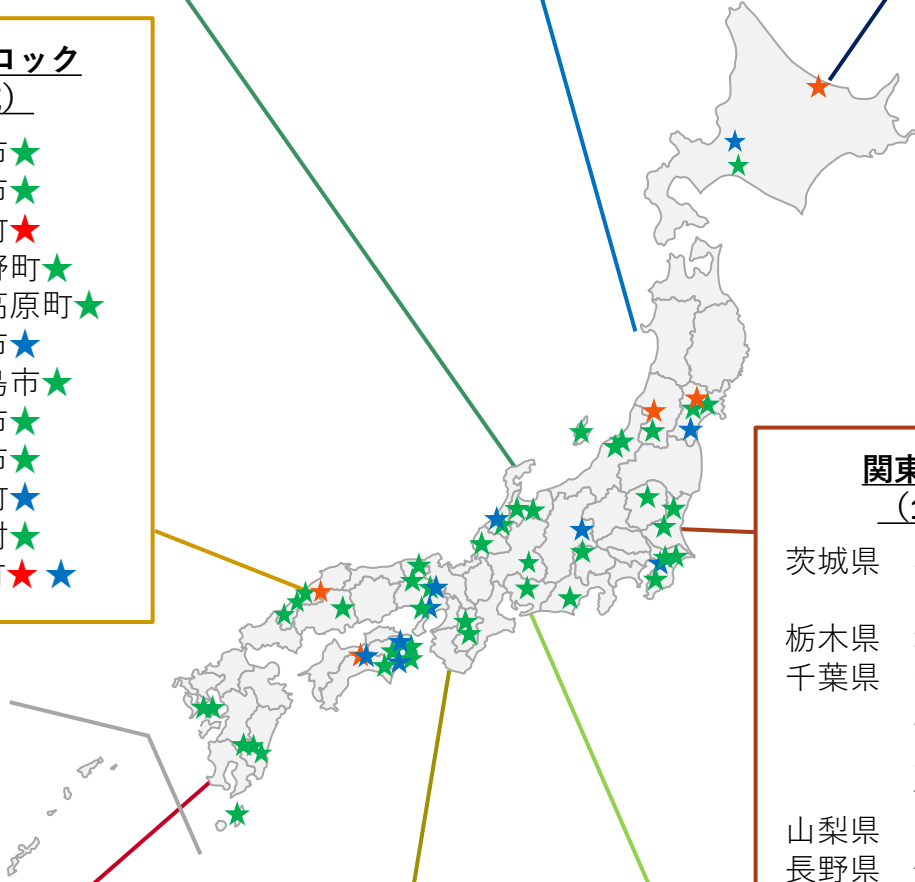
長崎県 雲仙市★
南島原市★
宮崎県 えびの市★
宮崎市★
綾町★
鹿児島県 南種子町★

近畿ブロック (6区域)

兵庫県 神戸市★
豊岡市★
養父市★
丹波市★
奈良県 天理市★
宇陀市★

東海ブロック (2区域)

岐阜県 白川町★
愛知県 岡崎市★



類型ごとの区域数(重複有)

有機農業★	41区域
GHG削減★	5区域
先端技術の活用★	10区域

目次（都道府県別）

番号	都道府県	市町村	設定区域	ページ
北海道				
01	北海道	湧別町	福島地区	8
02	北海道	岩見沢市	全域	9
03	北海道	安平町	全域	10
東北				
04	宮城県	山元町	山下地区、坂元地区	11
05	宮城県	美里町	中埜地区	12
06	宮城県	美里町	二郷地区	13
07	宮城県	涌谷町	猪岡短台地区	14
08	山形県	川西町	中郡地区、玉庭地区	15
関東				
09	茨城県	石岡市	柿岡地区、小幡地区、葦穂地区、恋瀬地区、瓦会地区、 園部地区、林地区、小桜地区、北小学校学区	16
10	茨城県	常陸大宮市	三美地域、鷹巣地域	17
11	栃木県	塩谷町	上寺島地区、鳥羽新田地区	18
12	千葉県	千葉市	若葉区、緑区、花見川区	19
13	千葉県	木更津市	全域	20
14	千葉県	成田市	全域	21
15	千葉県	佐倉市	全域	22
16	山梨県	北杜市	全域	23
17	長野県	佐久市	望月地区	24
18	静岡県	藤枝市	全域	25
北陸				
19	新潟県	新発田市	全域	26
20	新潟県	阿賀野市	全域	27
21	新潟県	佐渡市	全域	28
22	富山県	南砺市	皆葎熊川	29
23	石川県	白山市	松任地区	30
24	石川県	白山市	鶴来地区	31
25	福井県	越前市	全域	32
東海				
26	岐阜県	白川町	全域	33
27	愛知県	岡崎市	オクオカ地域	34

※ 公表に同意が得られた自治体のみ掲載しております

目次（都道府県別）

近畿

28	兵庫県	神戸市	「人と自然との共生ゾーン」	35
29	兵庫県	豊岡市	全域	36
30	兵庫県	養父市	おおや高原	37
31	兵庫県	丹波市	全域	38
32	奈良県	天理市	高原地区（長滝町、福住町、山田町）	39
33	奈良県	宇陀市	大宇陀・榛原地区	40

中国四国

34	島根県	浜田市	全域	41
35	島根県	江津市	全域	42
36	島根県	美郷町	全域	43
37	島根県	津和野町	須川地区	44
38	広島県	神石高原町	神石地区	45
39	徳島県	徳島市	川内町	46
40	徳島県	小松島市	全域	47
41	徳島県	阿南市	那賀川町、羽ノ浦町	48
42	徳島県	阿波市	市場町、阿波町	49
43	徳島県	海陽町	野江地区、高園地区	50
44	高知県	馬路村	全域	51
45	高知県	本山町	全域	52

九州・沖縄

46	長崎県	雲仙市	全域	53
47	長崎県	南島原市	全域	54
48	宮崎県	えびの市	飯野地区東部	55
49	宮崎県	宮崎市	全域	56
50	宮崎県	綾町	全域	57
51	鹿児島県	南種子町	長谷、島間、西之、上中、河内、下中地区	58

※ 公表に同意が得られた自治体のみ掲載しております

目次（類型別）

番号	都道府県	市町村	設定区域	ページ
有機農業の生産活動の取組				
03	北海道	安平町	全域	10
06	宮城県	美里町	二郷地区	13
07	宮城県	涌谷町	猪岡短台地区	14
08	山形県	川西町	中郡地区、玉庭地区	15
09	茨城県	石岡市	柿岡地区、小幡地区、葦穂地区、恋瀬地区、瓦会地区、 園部地区、林地区、小桜地区、北小学校学区	16
10	茨城県	常陸大宮市	三美地域、鷹巣地域	17
11	栃木県	塩谷町	上寺島地区、鳥羽新田地区	18
13	千葉県	木更津市	全域	20
14	千葉県	成田市	全域	21
15	千葉県	佐倉市	全域	22
16	山梨県	北杜市	全域	23
18	静岡県	藤枝市	全域	25
19	新潟県	新発田市	全域	26
20	新潟県	阿賀野市	全域	27
21	新潟県	佐渡市	全域	28
22	富山県	南砺市	皆葎熊川	29
24	石川県	白山市	鶴来地区	31
25	福井県	越前市	全域	32
26	岐阜県	白川町	全域	33
27	愛知県	岡崎市	オクオカ地域	34
28	兵庫県	神戸市	「人と自然との共生ゾーン」	35
29	兵庫県	豊岡市	全域	36
30	兵庫県	養父市	おおや高原	37
31	兵庫県	丹波市	全域	38
32	奈良県	天理市	高原地区（長滝町、福住町、山田町）	39
33	奈良県	宇陀市	大宇陀・榛原地区	40
34	島根県	浜田市	全域	41
35	島根県	江津市	全域	42
37	島根県	津和野町	須川地区	44
38	広島県	神石高原町	神石地区	45
40	徳島県	小松島市	全域	47
41	徳島県	阿南市	那賀川町、羽ノ浦町	48
42	徳島県	阿波市	市場町、阿波町	49
44	高知県	馬路村	全域	51
46	長崎県	雲仙市	全域	53
47	長崎県	南島原市	全域	54
48	宮崎県	えびの市	飯野地区 東部	55
49	宮崎県	宮崎市	全域	56
50	宮崎県	綾町	全域	57
51	鹿児島県	南種子町	長谷、島間、西之、上中、河内、下中地区	58

※ 公表に同意が得られた自治体のみ掲載しております

目次（類型別）

番号	都道府県	市町村	設定区域	ページ
廃熱の回収利用等、温室効果ガスの排出量の削減に資する生産活動の取組				
01	北海道	湧別町	福島地区	8
05	宮城県	美里町	中埜地区	12
36	島根県	美郷町	全域	43
45	高知県	本山町	全域	52
先端的な技術を活用した生産活動の取組				
02	北海道	岩見沢市	全域	9
04	宮城県	山元町	山下地区、坂元地区（一部）	11
12	千葉県	千葉市	若葉区、緑区、花見川区	19
17	長野県	佐久市	望月地区	24
23	石川県	白山市	松任地区	30
28	兵庫県	神戸市	「人と自然との共生ゾーン」	35
31	兵庫県	丹波市	全域	38
39	徳島県	徳島市	川内町	46
43	徳島県	海陽町	野江地区、高園地区	50
45	高知県	本山町	全域	52

※ 公表に同意が得られた自治体のみ掲載しております

01 北海道湧別町

設定区域 福島地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

湧別町では、基幹産業である酪農から発生する乳牛のふん尿がバイオマス全体の78%を占めており、再生可能エネルギーとしての利用を推進するため、令和2年に「バイオマス産業都市構想」を策定しました。乳牛のふん尿等を原料としたバイオガスプラントで発電を行い、副産物である消化液を肥料として利用するとともに、固形分を再生敷料として利用しています。



集中型バイオガスプラント
(R7.10月稼働予定)

湧別町

2 地域の課題

基幹産業である酪農の規模拡大により、乳牛のふん尿処理のための農家負担が課題となっており、湧別町福島地区にバイオガスプラントを建設し、乳牛のふん尿等を利用したバイオガス発電等を推進します。

3 特定区域が目指す姿

バイオガスプラントに園芸施設を併設し、プラントから発生する余剰熱を活用して園芸作物を栽培することで、温室効果ガスの排出削減と高収益作物生産を両立したモデルの構築を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ・高収益作物（トマト・イチゴ等）を栽培する園芸施設において、バイオガスプラントから発生する余剰熱を活用し、温室効果ガス排出を削減する取組を推進します。



余剰熱を活用した施設園芸イメージ

5 生産者の取組紹介

- ・令和7年度に本格稼働するバイオガスプラントから排出される消化液を活用し、地力の向上を目指します。
- ・また、バイオガスプラントから発生する余剰熱を活用した園芸作物の栽培に向けて、施設園芸等の試験栽培を検討しています。



令和6年11月に設置された発電機

6 問い合わせ先

北海道農政部食品政策課
湧別町役場農政課

TEL: 011-204-5226
TEL: 01586-2-5861

02 北海道岩見沢市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

岩見沢市は、北海道の道央圏に位置し、耕地面積19,700haの広大で肥沃な土地と石狩川水系の豊富な水を活かした土地利用型農業を主体に、水稻や小麦、大豆、玉葱、白菜などにおいて道内有数の産地を形成しているほか、野菜や花き、果樹、醸造用ぶどうの生産など地域特性を活かした多様な農業が展開されています。



岩見沢市主要作物の一部
(左上から水稻、小麦、玉葱、白菜)



岩見沢市

2 地域の課題

農業従事者の高齢化や農家戸数の減少に伴う労働力不足などの課題があり、ICT活用による農作業等の省力化・省資源化を目指す農業者による研究団体が組織されるなど、地域一丸となって取り組んでいます。

3 特定区域が目指す姿

岩見沢市全域において、産学官連携のもとICT・AI等の先端技術を活用した次世代型農業の実現に向けたスマート農業の取組を推進し、『未来につなぐ“強いいわみざわ農業の実現”』を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① トラクターの自動操舵や自動運転に必要な高精度位置測位情報を全国に先駆けて構築したRTK-GNSS基地局を市内4か所に整備しています。
- ② 「業務用無線方式（免許局）」と「Ntrip方式」の2種類の配信方法による運用を行うことで、運転技術が未熟な農業者でも効率的で正確な作業が可能となっています。
- ③ これらの技術を活用したマップベースの可変施肥等による燃料及び化学肥料使用量の削減や省力化を図る取組を推進します。



高精度位置測位情報を活用した
協調型ロボットトラクターによる
無人走行の実証風景

5 生産者の取組紹介

- ・ いわみざわ地域ICT（GNSS等）農業利活用研究会（農業者、JA、行政、企業等により構成）
- ・ ICTの具体的利活用について検討、情報の収集、研修、現地ほ場での実証研修等を実施し、広く農業者が利活用できる環境整備をすること及び農業の更なる高度化を目的とし活動しています。



6 問い合わせ先

北海道農政部食品政策課
岩見沢市役所農務課

TEL: 011-204-5226
TEL: 0126-23-4111

03 北海道安平町

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

安平町は北海道の道央圏に位置し、地勢や気象などの自然条件を生かしながら、多様で複合的な生産構造による農業経済が展開され、豊かな自然環境を支える重要な役割を果たしています。有機農業では畑作、稲作、施設園芸、養鶏などを組み合わせた多様な経営を行っており、令和5年4月にオーガニックビレッジ宣言を行いました。



拡大が期待される有機米



安平町

2 地域の課題

有機農業を推進していくため、生産面積拡大のための慣行農業からの転換、新規就農者の獲得や有機農産物の販路を開拓するための加工品の製造等を行う必要があります。

3 特定区域が目指す姿

有機農業の技術指導を通じて慣行農業からの転換、新規就農者の増加を促し、有機農業の取組を推進するとともに、有機農産物の活用を拡大を図り、有機農産物の産地形成を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 慣行農業者の意識醸成、新規就農者の確保のため、有機農業に関する講演会などを開催します。
- ② 学校給食への有機農産物を活用や有機農産物の加工品の開発を支援します。
- ③ 北海道有機農業協同組合を通じて、流通・販売先を開拓し、有機農産物の販路の確保を図ります。



フランスから講師を招き、学校給食に関する講演会を開催

5 生産者の取組紹介

- ・安平町有機農業推進協議会
(町内の有機農業者で結成)
- ・新規就農者の獲得を中心に有機農業を推進するための活動を行っています。特定区域の設定を契機として、今後より一層有機農業の推進を図っていきます。



6 問い合わせ先

北海道農政部食品政策課
安平町役場産業振興課

TEL: 011-204-5226
TEL: 0145-22-2515

04 宮城県山元町

設定区域 やました さかもと 山下地区及び坂元地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

山元町の当該地区は東北有数のいちご産地でしたが、東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けました。東日本大震災後に復興のシンボルとして整備した「いちご団地」や町内のいちご生産法人では、ハウス内に ICT を活用した環境制御装置を整備・導入するとともに、省エネ効果がある被覆資材の使用や養液の回収による化学肥料の使用低減などに取り組んでいます。



町内で「完熟いちご」を生産しています！



山元町

2 地域の課題

東日本大震災の津波により栽培施設の約95%が倒壊や冠水などの壊滅的な被害を受けました。

山元町では平成 24 年度から復興交付金を活用して栽培施設を整備し、産地復興に取り組んでいます。資材価格等が高止まりし、経費負担の増高により、経営を圧迫しています。

3 特定区域が目指す姿

ICT を活用した環境制御装置等を導入するスマート施設園芸の生産団地を形成することで、温室効果ガスの排出削減など環境負荷の低減と生産性の向上と効率化を図る、先進的な生産活動の実現を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① ICT を活用した環境制御装置等の先端的技術を用いた、温度、湿度等のセンシングデータに基づく加温や施肥投入等、温室効果ガスの排出量の削減や化学肥料の使用量低減の取組を推進します。
- ② ①と併せて実施する、省エネ効果がある被覆資材の使用など、温室効果ガスの排出削減の取組を推進します。



【灌水システムによる管理】

5 生産者の取組紹介

【UV-Bランプの活用】

上記の取組にあわせて、UV-Bランプの活用も行っています。同ランプは、うどん粉病やハダニ防除対策の一つであり、農薬の使用回数を低減することができ、環境負荷低減が図られています。



6 問い合わせ先

山元町農林水産課 TEL: 0223-37-1119

05 宮城県美里町

設定区域 なかぞね 中埜地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

美里町は、町内を江合川と鳴瀬川が貫流しているため水利に恵まれ、土地も平坦で町の面積の約70%が水田や畑となっています。中埜地区は、耕種農家による水稻、麦、大豆等、土地利用型農業と、国内最大規模を誇る次世代型大規模施設園芸によるレタス生産が共存しており、また環境負荷低減への意識や、人や社会・環境に配慮した消費行動、いわゆるエシカル消費などへの関心が高い地域です。



美里町公認キャラクター
みさとまちこちゃん



美里町

2 地域の課題

農業者の減少や高齢化などを背景に、地域農業の持続可能性が課題となっていることから、農業生産性の向上と自主自立的な農業経営の実現による農業の持続的発展が望まれています。

3 特定区域が目指す姿

農業者等による連携体制を構築し、環境負荷低減と経済活動の両立による農業の持続的発展を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ①営農型太陽光発電を導入し、電力需要が大きい次世代型大規模施設園芸を中心に区域内の農業施設等への電力供給による温室効果ガスの排出削減の仕組みを検討します。
- ②太陽光発電設備下における生産体系の確立及び生物多様性の保全等を想定し、生産コストの削減、農産物の品質向上、ブランド化による付加価値向上などを目指します。



国内最大規模を誇る次世代型大規模施設園芸のレタス工場

5 生産者の取組紹介

- ・次世代型大規模施設園芸では、施設由来の二酸化炭素を野菜の生育に再利用し、また脱プラスチックに貢献する土を使った「ソイルブロック」を開発しています。
- ・行政機関、生産者、発電事業者で組織する協議会により、営農型太陽光発電設備を活用したモデル事業の検討を行っています。



美里町アグリ・カーボンニュートラル推進協議会

6 問い合わせ先

美里町産業振興課 TEL: 0229-58-2374

06 宮城県美里町

設定区域 にぎょう 二郷地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

美里町は、町内を江合川と鳴瀬川が貫流しているため水利に恵まれ、土地も平坦で町の面積の約70%が水田や畑となっています。水田は約87%がほ場整備済みであり、汎用水田を活用した水稻、麦及び大豆による土地利用型農業が主体となっています。二郷地区は、特に有機農業に取り組む者が集中し、かつ有機農業の取組が拡大している地区となっています。



美里町公認キャラクター
みさとまちこちゃん



美里町

2 地域の課題

当該地区では有機農業の取組が拡大している一方で、慣行栽培や特別栽培等、栽培方法の多様化により、麦・大豆等の団地化を図る上で、有機栽培ほ場との調整が課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

有機栽培の取組は、慣行栽培による生産物との差別化による有利販売などの経済的な期待のほか、環境負荷の低減、生物多様性などへの期待が大きいことから、有機農業の生産団地の形成を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 慣行栽培と有機栽培のゾーニングや生産団地化に向け、土地利用調整に対する地域の合意形成を進めます。
- ② 地域の農業者間の栽培技術の共有や研鑽の場の提供・促進を図ります。
- ③ 農業者の取組のPR等を通じ、有機農産物の付加価値向上と需要喚起を図ります。



慣行栽培と有機栽培のゾーニングを検討する様子（地域計画の策定過程）

5 生産者の取組紹介

- ・ 水稻、大豆の有機JAS認証を取得した生産者は5名、作物の総耕地面積は約100haで、県内全体の約4分の1を占めます。
- ・ 有機栽培について地域の住民への理解と認知を広げる取組や、若い担い手の育成に向けた取組などを行います。



有機栽培米の収穫の様子

6 問い合わせ先

美里町産業振興課

TEL: 0229-58-2374

07 宮城県涌谷町

設定区域 いのおかたんだい 猪岡短台地区

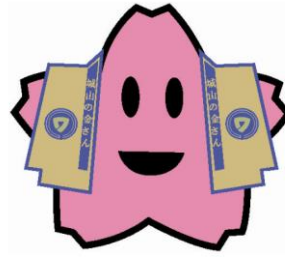
有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

涌谷町は宮城県北東部の遠田郡とおだぐんに位置し、日本で初めて金が産出した地としても知られ、農業は米・麦・大豆等の品目を中心とした土地利用型農業が主体となっています。特に当該地区では環境保全米を始め、減農薬・減化学肥料で生産に取り組む生産者が多く、今後は有機農業の取組の拡大が期待される地域となっています。



涌谷町公式キャラクター
「城山の金さん」



涌谷町

2 地域の課題

地域における有機農業の技術の継承が課題となっており、高齢化の進行とともに、環境負荷低減の取組が困難になる農業者も増加しています。

3 特定区域が目指す姿

地域内の農業者間の栽培技術・ノウハウの共有や、慣行栽培を行う農業者との調整を地域ぐるみで行うことにより、有機農業の新たな産地形成を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 地域内の農業者間の有機農業の栽培技術・ノウハウの共有と技術の継承を推進します。
- ② 慣行栽培と有機栽培のゾーニングや地域ぐるみでの調整を推進します。



地域の調整検討の様子

5 生産者の取組紹介

環境負荷低減事業活動の一環として有機肥料を活用した栽培を行っています。町として堆肥保管庫を設置し、有機肥料の使用推進を図っています。今後は有機農業の面積拡大に向けて栽培技術等の継承及び指導を推進していきます。



6 問い合わせ先

涌谷町産業振興課

TEL: 0229-25-8511

08 山形県川西町

設定区域 中郡地区、玉庭地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

川西町は、最上川がもたらす肥沃な大地に恵まれ、稲作を中心とする農業を基幹産業として発展してきました。また、米沢牛の主産地として、畜産と米作りが結びつく有畜複合経営も行われています。

令和5年4月には、農：土づくり運動、食：地産地消、学：食農教育の3本柱を軸としたオーガニックビレッジ宣言を行いました。



山々に囲まれた玉庭地区



川西町

2 地域の課題

当該区域においては、有機農業に取り組む生産者の高齢化が進んでいるため、作業の省力化や、新規参入者が有機栽培技術を習得しやすい体制づくりが求められています。

3 特定区域が目指す姿

町内でも特に有機取組面積の大きい特定区域の2地区が、有機農業の団地化をけん引する存在となり、町全体で有機農業を推進していく原動力になることを目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 生産者で構成された有機農業推進協議会が主体となって、有機栽培を新たに始めた生産者を主な対象とした研修会を実施し、地域全体で栽培技術の底上げを図ります。
- ② 学校給食や旅館への有機農産物の提供など、地産地消の取り組みを積極的に進めることで、地域での有機農業に対する関心の喚起につなげます。



玉庭地区の圃場での栽培技術研修会

5 生産者の取組紹介

- ・株式会社ジゴボッチャ【中郡地区】
代表取締役 井上 清人氏（写真中央）
- ・今年有機JAS審査員資格を取得し、さらに大豆の有機JAS認証取得を目指しています。来年以降それらの経験を生かし、ともに有機栽培に取り組む仲間を増やして、地域における有機農業の推進に貢献していきたいと考えています。



6 問い合わせ先

山形県農林水産部農業技術環境課
川西町産業振興課

TEL: 023-630-2481
TEL: 0238-42-6641

09 茨城県石岡市

設定区域

かきおか おばた あしほ こいせ
柿岡地区、小幡地区、葦穂地区、恋瀬地区、
かわらや そのべ はやし こざくら きたしょうからこう
瓦会地区、園部地区、林地区、小桜地区、北小学校学区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

石岡市は、都心から70kmのアクセスの良さに加え、筑波山系に囲まれた盆地の中に広がる農業の盛んな地域であり、有機農業を推進するため、自然環境の保全に資する環境保全型農業などに取り組んできました。

また、新規就農者支援施設「朝日里山ファーム」を開設し、有機農業をはじめとした地域農業の担い手の育成等を行っています。



石岡市の田園風景



石岡市

2 地域の課題

農家の高齢化による担い手不足や、耕作放棄地の増加などの問題に伴う、既存の有機農家及び新規有機農業就農者への支援体制の強化が課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

有機農業技術の普及推進、新規就農者施設による新たな有機農業者の増加など、有機農業モデル団地としての更なる取り組みの推進を図っていきます。

4 推進する生産者の取組

- ① 炭素貯留効果の高い堆肥や緑肥等を活用した生産技術の普及
- ② 新規就農者施設の運営による、新規有機農業者の輩出及び有機ほ場の拡大
- ③ JAやさと有機栽培部会による学校給食等への食材提供の推進



新規就農者支援施設
「朝日里山ファーム」の卒業生

5 生産者の取組紹介

【JAやさと有機栽培部会】

- ・1997年に地元生産者と県外からの移住者10戸で設立、現在の部会員は32人。
- ・化学肥料・化学合成農薬を一切使用しない、地域資源を有効利用した循環型農業を実施しています。
- ・部会員全員が有機JAS認証を取得しています。



6 問い合わせ先

茨城県農林水産部農業政策課
石岡市産業戦略部農政課

TEL: 029-301-3828
TEL: 0299-43-1111

10 茨城県常陸大宮市

設定区域

みよし たかす
三美地域、鷹巣地域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

常陸大宮市は、令和5年度に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、オーガニック学校給食の実現をきっかけとし、生産者と消費者それぞれの理解と連携を深め、有機農業を地域全体で推進しています。三美地区は、大規模な有機モデル団地として野菜類の栽培が始まり、鷹巣地区は、全国初の「有機農業を促進するための栽培管理協定」を締結し、地域ぐるみで有機米の栽培に取り組んでいます。



有機農業モデル団地
(三美地域)



常陸大宮市

2 地域の課題

- ①有機農業者等の育成・定着
- ②有機農業に関する生産技術の向上
- ③有機農産物の流通販売・消費促進
- ④有機農業に対する理解の促進

3 特定区域が目指す姿

農地の集積・集約化や土壌診断、講習会の実施により、収益性と生産技術の向上を図り、低コストかつ安定した収量確保と栽培品目の拡大に努めます。
また、有機農業の他地域への広がりを進め有機農業の仲間を増やすとともに、道の駅、直売所等を活用した販路の拡大や、学校給食等を通じた食育や地産地消を推進して行きます。

4 推進する生産者の取組

- ① 有機農産物の生産安定に向けた、土壌診断に基づく土づくり、栽培技術の向上に取り組めます。
- ② 学校給食における有機農産物使用に向けて、栽培品目の拡大に取り組めます。
- ③ 有機JASの認証取得に取り組めます。



栽培講習会（三美地域）

5 生産者の取組紹介

- ・法人名 (株)JA常陸アグリサポート
有機取組開始年度：令和3年度
栽培品目：露地野菜、水稻
栽培面積：7.7ha（有機JAS認証取得）
- ・法人名 (株)カモスフィールド
有機取組開始年度：令和3年度
栽培品目：葉物野菜
栽培面積：4.0ha（有機JAS認証取得）



有機米栽培



コマツナ栽培

6 問い合わせ先

茨城県農林水産部農業政策課
常陸大宮市産業観光部農林振興課

TEL: 029-301-3828
TEL: 0295-55-8072

II 栃木県塩谷町

設定区域 かみてらしま とばしんでん
上寺島地区、鳥羽新田地区

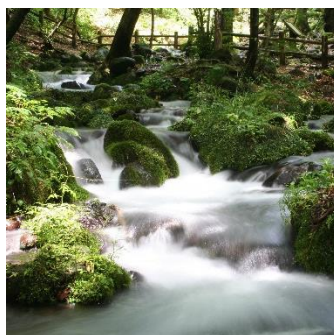
有機

温室効果
ガス削減

先端技術

I 地域の特徴

塩谷町は、栃木県の中央やや北部に位置し、高原山や尚仁沢湧水など豊かな自然と、先人たちが切り開いた森林や田畑などの地域資源に恵まれており、有機農業を地域活性化の重要な手段として位置づけ、「自然と共生する農業づくり協議会」を設立し、有機農業の推進に取り組んでいます。



しょうじんざわゆうすい
尚仁沢湧水



塩谷町

2 地域の課題

町内全域が中山間地域に位置し、特に鳥羽新田地区は農地区画が小規模、不整形であり、営農の大規模化が困難であるため、有機農業の実践と高付加価値販売による農業者の経営の安定化を図ることが不可欠です。

3 特定区域が目指す姿

新たな有機農業取組者の呼び込みや、既存の有機農業者への支援体制を構築することにより、有機農業の団地化を図るとともに、有機農業の取組を広く発信し、有機農産物の高付加価値化につなげていきます。

4 生産者の取組の支援

- ・ 新たな有機農業取組者確保のため、栽培技術講習会の開催や有機JAS認証取得の際の費用を補助します。
- ・ 町内小中学校、保育園の給食に使用する米については、町産栽培期間中農薬・化学肥料不使用米を全量使用し、地域ぐるみでの産地づくりを支援します。
- ・ イベントへの出店やマルシェを開催し、消費者に対する理解促進を図ります。



学校給食への提供

5 生産者の取組紹介

- ・ 取組品目：水稻
- ・ 取組面積：6ha → 拡大目標：15ha
- ・ 栽培技術講習などに参加し、品質向上を目指しながら、環境負荷低減の取組を行っています。
- ・ 町内外の子どもたち等を対象に田植えや稲刈りを実施し、消費者へのPRを実施しています。



6 問い合わせ先

栃木県農政部経営技術課 TEL: 028-623-2286
塩谷町役場産業振興課 TEL: 0287-45-2211

12 千葉県千葉市

設定区域 若葉区、緑区、花見川区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

千葉市は県内の交通の要衝となっており、首都圏の大消費地と近接しています。若葉区、緑区、花見川区は施設園芸を中心に農業生産が盛んに行われている地域です。

市内のイチゴの生産者を中心に「千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会」が発足し、燃油の使用量の削減と、イチゴの収量や品質の向上を目標に取り組んでいます。



イチゴ栽培



千葉市

2 地域の課題

施設園芸では化石燃料の使用量が多く、継続して施設園芸を推進していくために、農産物の収量・品質の向上とともに、新技術の導入などによる環境負荷低減を図る取組もあわせて推進していく必要があります。

3 特定区域が目指す姿

市内の施設園芸においてヒートポンプや環境制御装置等の先端技術の組み合わせにより、環境負荷低減と収量・品質の向上を両立し、イチゴをはじめとする施設園芸産地としての生産体系の構築を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① イチゴ・トマト生産者を中心とする「千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会」による、ヒートポンプや環境制御装置等の先端的技術を活用した温室効果ガスの排出削減を推進します。
- ② 千葉市農政センターを核とする実地研修や、アグリテック企業及び農業者と連携した実証実験を行います。
- ③ 持続可能性を追求する千葉市の食のブランド「千」によるイベント等を活用した販路開拓を支援します。



環境制御装置を活用したイチゴ栽培

5 生産者の取組紹介

- ・ Y'S Agri 合同会社（千葉市若葉区）
鉄骨ハウス1棟、パイプハウス1棟、育苗棟1棟
栽培品目：イチゴ
- ・ 取組の概要
環境制御機器、外気導入、燃油・二酸化炭素削減のための省エネルギー装置の導入による温度管理の精密化で、イチゴの高品質化と燃料費削減に取り組んでいます。



ほ場に接地する外気導入コリドー部分

6 問い合わせ先

千葉県環境農業推進課
千葉市役所農業生産振興課

TEL: 043-223-2773
TEL: 043-228-6278

13 千葉県木更津市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

木更津市は千葉県の中央部に位置し、豊かな土地と温暖な気候条件に加え、首都近郊という立地条件を生かし、水稻を中心に農業を展開しています。また、「木更津市人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例」を制定し、令和5年3月に「オーガニックビレッジ宣言」を行うなど、市全域で有機農業に取り組んでいます。



木更津市

2 地域の課題

農業経営者の高齢化や農業生産資材費、人件費の増加、生産者の確保・育成をしていくこと、より利益率の高い農業経営を行っていくことが課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

「木更津市有機農業推進協議会」のほか、流通・加工業者と連携し、水稻だけでなく、幅広い農産物の栽培面積拡大や有機農業者の増加を図り、有機米のブランド化を推進するなど、有機農業の取組を推進します。

4 生産者の取組の支援

- ① 有機栽培の管理方法を確立し、検討会の開催、有機JAS認証取得支援など新規参入しやすい環境を整備します。
- ② ブランド化を図るために、市内で生産された有機農産物を活用した商品開発・PRを実施します。
- ③ 「きさらづ学校給食米®」を学校給食へ提供する取組を拡大・継続します。



きさらづ学校給食米®

有機野菜の写真▶



5 生産者の取組紹介

- ・株式会社耕す
- ・取組内容：有機農業の取組みを拡大、多様化することにより、生物多様性を保全しながら、良質で美味しい野菜の生産を行い、地域における持続可能で循環型農業のモデルとして有機農業の促進を図ります。
- ・今後の目標：市内の先進的事例となれるよう、特定認定の取得に向けて前向きに取り組めればと思っております。



6 問い合わせ先

千葉県環境農業推進課
木更津市役所農林水産課

TEL: 043-223-2773
TEL: 0438-38-6516

14 千葉県成田市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

成田市は千葉県の北部中央に位置する中核都市であり、広大な水田地帯と関東ローム層からなる丘陵地帯の台地には畑や山林が広がり、その間に谷津田が形成される地域です。

印旛沼周辺や川沿いの水田・谷津田で稲作、台地では露地野菜の栽培が行われており、従来より有機農業などの環境保全型農業への取組が盛んな地域です。



有機にんじん



成田市

2 地域の課題

地域としての有機農産物のPR、有機農業者の育成体制が十分ではないため、地域ぐるみでの有機農業への取組体制の構築を行う必要があります。

3 特定区域が目指す姿

関係者同士のつながりをつくり、地域ぐるみで有機農業の栽培技術の普及や学校給食等による消費拡大を推進することで、有機農産物の産地としての活性化を図ります。

4 生産者の取組の支援

- ① 慣行農業からの転換者、有機農業を希望する新規就農者に対しての講習会等の開催による有機農業の栽培技術の普及に取り組めます。
- ② 学校給食に有機農産物を積極的に使用することで、安定的な販売先を確保するとともに、地域農業の学びなど食育も推進します。
- ③ 有機農産物のPRイベント等の開催により消費者の理解醸成を図ります。



産業まつりへの出展

5 生産者の取組紹介

- ・ 有機農業に取り組む生産者団体：田畑から未来の成田をつくる会（おかげさま農場、かんらん車、大栄みみずの会、ドリーム成田、成田市環境保全型農業研究会など）
- ・ 環境にやさしい持続可能な有機農業の拡大に取り組む、生産された有機農産物が当たり前で市内で購入できる成田市を目指します。



6 問い合わせ先

千葉県環境農業推進課
成田市役所農政課

TEL: 043-223-2773
TEL: 0476-20-1541

15 千葉県佐倉市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

佐倉市は、県の北部の下総台地のほぼ中心部に位置し、都心へのアクセスも良く、交通の利便性に恵まれている利点を生かして、稲作を中心とした都市近郊農業を維持しつつ、多様な農産物が生産されています。

令和5年3月に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、有機農業の取組拡大に市全域で取り組んでいます。



佐倉ふるさと広場の風車



佐倉市

2 地域の課題

佐倉市の有機農業者は個別に生産、出荷、販路の開拓等を行っており、安定した販路の確保や生産技術に関する情報交換が十分とは言えません。

3 特定区域が目指す姿

佐倉市オーガニックビレッジ推進部会を中心に、生産、加工・流通、消費の各段階における関係者の連携を図り、学校給食での有機農産物の活用拡大を含めた多様な販路の確保や生産者同士の組織化を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 有機栽培技術研修会の開催等による有機農業の生産技術の確立と普及に取り組めます。
- ② 有機農業者間での生産技術及び販売先等に関する情報交換や、消費者への情報提供等を円滑に行える組織を設立します。
- ③ 新たな需要を開拓するための有機JAS認証の取得を支援します。



有機米栽培技術研修会の様子

5 生産者の取組紹介

市内には、バイオ炭の活用やアイガモ農法などを始めとして、様々な手法で環境負荷軽減に資する農業に取り組む生産者が点在しています。

特定区域の設定を契機として、より多くの消費者に上記の取組を周知するとともに、市全域で連携した取組が展開されるよう推進に努めます。



アイガモ農法の様子

6 問い合わせ先

千葉県環境農業推進課
佐倉市役所農政課

TEL: 043 - 223 - 2773
TEL: 043 - 484 - 6142

16 山梨県北杜市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

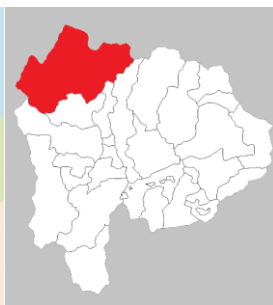
1 地域の特徴

北杜市は、ハケ岳や南アルプス、金峰山等3,000m級の山々に囲まれ、清らかな水と豊かな日照時間がもたらす太陽の恵みにより多種多様な農産物が生産されています。

令和5年3月に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、「有機農業のまち北杜」を目指し、有機農業の推進に取り組んでいます。



ほくとの有機農業



北杜市

2 地域の課題

有機農産物の収量や品質を確保する栽培技術の確立や地域の物流の問題、有機農業が環境負荷低減、生物多様性に資するものであるということの消費者への理解醸成が十分とは言えない状況にあります。

3 特定区域が目指す姿

スマート農業技術の導入や有機農業者間のネットワークづくりを推進し、安定的な生産・協力体制を構築するとともに、消費者の理解醸成を促進することにより、有機農産物の消費拡大を図ります。

4 生産者の取組の支援

- ① 農地の集積、集約化による有機農業の団地化を図り、新規就農者等が参入しやすい環境を整備します。
- ② 情報交換や出荷等を行うグループ化の促進、スマート農業技術の導入を推進し、安定的な生産体制を構築します。
- ③ 北杜市フードバレー協議会のネットワークの活用や学校給食への導入により有機農産物の消費拡大を図ります。



地域の小学校を対象にした有機農業とスマート農業の導入のようす

5 生産者の取組紹介

- ・ 北杜市有機農業推進協議会（代表 畑山農場 畑山貴宏）
- ・ 市内の有機農家が中心となり、北杜市フードバレー協議会の傘下組織として立ち上げました。有機JAS取得に向けた勉強会や新規有機栽培技術の共有を行う意見交換会、学校給食への有機栽培米の提供等を行っています。環境保全型農業直接支払の交付団体も兼ねており、参加者が70名を超える、地域の有機農産物の安定的な生産体制を支える団体です。



6 問い合わせ先

山梨県農政部農業技術課
北杜市役所商工・食農課

TEL:055-223-1618
TEL:0551-42-1354

17 長野県佐久市

設定区域

もちづき
望月地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

佐久市当該地区は有機農業を始めとする環境にやさしい農業の取組がされている他、有機農業を志す新規就農者を研修生として受け入れる等、環境にやさしい農業の取組が浸透している地域であります。

JA佐久浅間等と連携して化学肥料の使用低減に寄与するペレット堆肥の製造等の取組について、基盤確立事業の認定を受けています。



ハイブリッド肥料



佐久市

2 地域の課題

生産物の高品質化、差別化や高付加価値化、規模拡大や作業の効率化によるコスト削減の徹底等により収益性の高い農業の確立が急がれています。

3 特定区域が目指す姿

基盤確立事業の認定を受けているJA佐久浅間等と連携した「望月土づくりセンター」でのペレット堆肥や化成肥料とのハイブリッド堆肥の製造・流通・販売等の取組を推進します。

4 推進する生産者の取組

当該地区のあらゆる栽培品目に対し、環境負荷の低減に資する先端的な技術として、土壌診断と合わせて、有機質資材であるペレット堆肥（基盤確立事業で認定を受けたJA佐久浅間等が製造）の施用による土づくり及び化学合成農薬・化学肥料の使用を減少する取組を推進します。



望月土づくりセンターの
ペレット堆肥製造機械



ペレット堆肥
パッケージ

5 生産者の取組紹介

令和5年からペレット堆肥の生産がはじまり、散布方法等の確立を目指しています。ペレット堆肥は散布が容易なため、大型の散布機械を所有していない農業者が店頭で購入しています。



機械によるペレット堆肥散布

6 問い合わせ先

長野県農政部農業技術課
佐久市役所経済部農政課

TEL: 026-235-7222
TEL: 0267-32-3203

18 静岡県藤枝市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、温暖な気候などに恵まれ、古くから茶の集散地として栄え、茶を基幹産業とした農業振興を展開しており、多くの生産者が茶や水稻などの有機農業に取り組んでいる地域です。

令和5年2月に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、有機農業の地域ぐるみでの取組を推進しています。



有機栽培米
(学校給食に提供)



藤枝市

2 地域の課題

新規就農者の獲得や、耕作放棄地を有機栽培へ転換を図るなど有機農業の規模拡大を推進するとともに、有機農産物の消費拡大に向けた取組を進めていく必要があります。

3 特定区域が目指す姿

有機栽培へ転換しやすい環境を整備することで、有機農業の規模拡大を推進していくとともに、有機農産物が「選ばれる食材」となるよう取組を推進していきます。

4 推進する生産者の取組

- ① 新規就農者や既存の生産者の取組拡大のため、有機農地の団地化の検討や乗用型茶園管理機などの導入を支援し生産体制を整備します。
- ② 農業生産の省力化、生産性向上などに資するスマート農業機器の導入の支援、有機堆肥の開発などを検討します。
- ③ 学校給食への有機食材の提供や、市内イベントやオーガニックマーケット等と連携して有機農産物の消費拡大を図ります。



学校給食への有機食材の提供の様子

5 生産者の取組紹介

- ・生産者：杵塚民子氏（㈲人と農・自然をつなぐ会）
- ・有機茶の生産に加え、加工も行っており、前茶のほかに紅茶も作っています。自然環境と生物多様性に寄り添った栽培を行っています。今後は有機茶園の面積拡大に努めていくとともに、有機茶の生産量・販売量の増加、海外展開を加速させていきます。



有機茶園の様子

6 問い合わせ先

静岡県食と農の振興課
藤枝市農業振興課

TEL: 054-221-2689
TEL: 054-643-3266

19 新潟県新発田市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

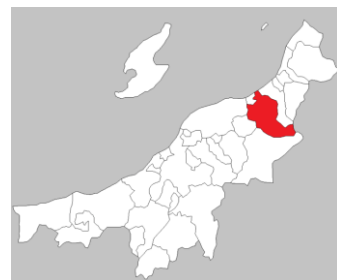
先端技術

1 地域の特徴

新発田市は「山・川・海」と豊かな自然に恵まれた米と畜産のまちであり、県内有数の良質米コシヒカリの産地となっています。市では、令和4年度から商工業や観光業と連携した「オーガニック SHIBATAプロジェクト」を始動し、有機農業によるブランドストーリーの構築を目指しています。



有機栽培啓発資材



新発田市

2 地域の課題

プロジェクトを始動し2年が経過しましたが、令和5年度の有機米の作付面積は、市内の水稻作付面積の約0.12%と、非常に割合が低い状況であり、作付面積の拡大は喫緊の課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

中山間地域を中心に有機農業の取組を進め、中山間地域における成功事例を他の地域に広げていきます。有機農業を市内全域に普及させることにより、持続可能な農業の実現を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 長岡技術科学大学と連携し、除草用小型ロボットの開発を進め、スマート技術を用いた有機栽培の普及を行います。
- ② 土づくりを推進するため、市有機資源センターが生産する堆肥をペレット化し、供給します。
- ③ 有機米の出口戦略として輸出に取り組めます。
- ④ 関係団体と連携し、イベント等でのPR活動により、国内での消費拡大につなげます。



開発中の除草用小型ロボット

5 生産者の取組紹介

させ農園（株）は、30年以上有機米栽培に取り組んでいる農業法人です。現在は、合鴨農法などにより、有機米を約4ha栽培しています。将来的には、特定計画の認定を目指し、引き続き有機農業に取り組んでいきます。

特定区域の設定により、有機農業の取組が益々普及していくことを期待します。



ほ場の合鴨の様子

6 問い合わせ先

新潟県農林水産部農産園芸課 TEL: 025-280-5296
新発田市役所農林水産課 TEL: 0254-33-3108

20 新潟県阿賀野市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

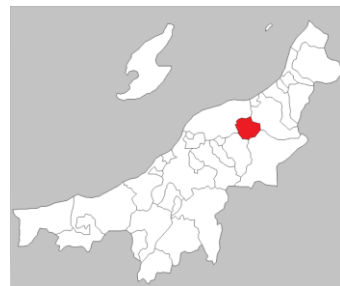
先端技術

1 地域の特徴

阿賀野市は水稲中心の地域であり、豊富な水量を誇る阿賀野川を利用して、二大幹線水路をはじめ、ほぼ全域に用水路が整備されており、広大な越後平野の穀物地帯の一角をなしています。特に、笹神地区では、いち早く「ゆうきの里ささかみ」宣言を行い、有機農業に力を入れてきました。



道の駅あがの



阿賀野市

2 地域の課題

近年では環境配慮に対する意識の高まりなどを背景に、有機への注目が高まっており、有機米の旺盛な需要に応えるためには、笹神地区だけでなく、市全体で有機米の生産に取り組む必要があります。

3 特定区域が目指す姿

市全域で有機農業の生産技術の確立と普及、企業等と連携した有機農産物の消費促進を進め、市内の農家所得の向上と、新規就農者の確保による担い手不足の解消を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① スマート農業技術の導入により省力化を図る有機農業の生産活動を推進します。
- ② ペレット堆肥の活用による資源循環の取組を推進します。
- ③ 道の駅の加工・販売機能を活用した商品の開発や有機農産物販売コーナーの設置など、有機農産物の消費拡大の取組を推進します。



アイガモのように水田を動き回る抑草ロボット



環境負荷低減の見える化ラベル「見えるらべる」を貼った農産物の販売（道の駅）

5 生産者の取組紹介

- ・青空ファームは、環境負荷低減事業活動実施計画の認定を受けており、有機米（JAS認証）の栽培、堆肥の施用、化学肥料及び化学農薬の使用量減少などに取り組んでいます。
- ・米について、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めています。



ペレット堆肥の散布



有機米（JAS認証）の販売

6 問い合わせ先

新潟県農林水産部農産園芸課 TEL: 025-280-5296
阿賀野市役所農林課 TEL: 0250-61-2478

21 新潟県佐渡市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

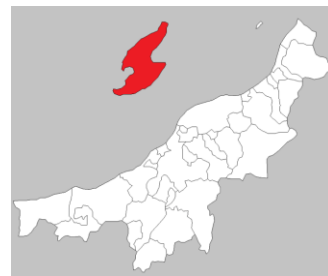
1 地域の特徴

佐渡市では、トキをシンボルとし、トキと人が暮らす里山で、生物多様性保全型農業と農業経済が連携した持続的な環境保全型農業に取り組んでいます。

佐渡島の中心部の平野は離島の平野としては広い面積を有し、かつ真野湾に注ぐ国府川など多くの川で潤うため、水稻栽培が盛んに行われています。



田んぼの上を飛ぶトキ



佐渡市

2 地域の課題

佐渡市の基幹産業である水稻生産では、「朱鷺と暮らす郷」認証制度の取組により、水稻耕作面積の約89%が特別栽培農作物等生産面積となっている一方、有機的に管理されているほ場は1%弱です。

3 特定区域が目指す姿

無農薬無化学肥料栽培(無農栽培)を含む有機農業へのステップアップを、佐渡島内の有機資源の循環によって達成し、日本全土の資源循環の普及拡大のためのモデルとなることを目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 有機農業の生産拡大と収量向上のための農業者の情報共有の場づくり、牡蠣殻やもみ殻堆肥などの島内資源の有効活用、ラジコン除草機等のスマート農機の導入による労働力の軽減、苗の供給や乾燥調製の共同化等の取組を推進します。
- ② 認定基盤確立事業者(酒業者)と連携した有機農産物の利用拡大、佐渡市内又は首都圏の学校等と連携した学校給食での利用拡大を推進します。



食育講師をする生産者(左)と、有機米給食を食べる児童(右)

5 生産者の取組紹介

JA佐渡自然栽培研究会は、水稻の自然栽培(無農薬・本田無肥料栽培)や無農栽培、野菜の無農栽培を行う農家が参加しているJAの栽培部会です。農家の提案から、研修会の開催・参加、無農栽培作物の食味検査を実施するなど、活発に活動しています。



研修会の様子

6 問い合わせ先

新潟県農林水産部農産園芸課

TEL: 025-280-5296

佐渡市役所農林水産部農業政策課

TEL: 0259-63-5117

22 富山県南砺市

設定区域 皆葎熊川

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

南砺市は、富山県の南西に位置し、庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、栽培条件にも恵まれ、県内でも特に農業が盛んです。

皆葎熊川は、中山間地に位置する五箇山地域にあり、5haの農用地が団地化されています。

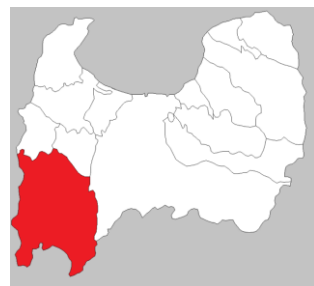
令和4年度から、地元の農作業受託組織である五箇山農業公社が、水稻の有機栽培実証に取り組んでいます。



五箇山地域



皆葎熊川ほ場



南砺市

2 地域の課題

南砺市では、五箇山地域の活性化と農地維持を推進するひとつとして、有機農業の拡大に取り組んでいますが、五箇山地域の気候・風土に適した栽培技術の確立や販路確保が大きな課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

中山間地域ならではの自然ロケーションを活かした水稻の有機栽培に取り組み、また、地域全体で有機農業の実践を図ることで、新たな産地形成を目指しています。

4 生産者の取組への支援

- ① 水稻有機栽培の収量の確保・安定化に向けた研修会の開催や先進地視察を行い、五箇山地域の気候・風土に適した栽培技術の確立とノウハウの共有を支援しています。
- ② 地元の酒蔵や市内の食品メーカーと連携し、日本酒や米菓等の加工品の開発や販売実証を支援しています。



有機栽培研修会



加工品開発
(日本酒、お団子)

5 生産者の取組紹介

- ・ 五箇山農業公社が、市内の先駆的な有機農業者から技術指導を受けながら有機栽培の実証やデータ収集に取り組んでいます。
- ・ 地元NPO法人が中心となり、市内の有機食材を使った“五箇山御膳”を開発して試食会を開催するなど有機農産物の認知度向上を図っています。



水稻の有機栽培実証



有機食材を使った
五箇山御膳

6 問い合わせ先

富山県農業技術課
南砺市農政課

TEL:076-444-8292
TEL:0763-23-2016

23 石川県白山市

設定区域 まつとう 松任地区

有機

温室効果
ガス削減

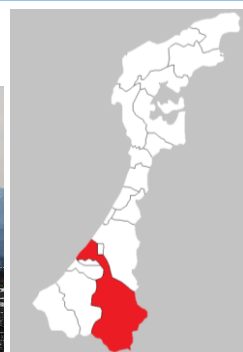
先端技術

1 地域の特徴

白山市では、沿岸部から山間地域までの広い地域的条件を活かし、稲作を中心とした多様な農林水産業が営まれ、良質な生産物が産出されています。松任地区では大麦の生産時に自動操舵システム等スマート機器を活用した畜産堆肥等の有機質資材の施用や水稻生産時の化学肥料・化学農薬の使用量削減に取り組んでいます。



白山と手取川



白山市

2 地域の課題

農家の減少や高齢化のほか、農産物価格の低下や生産資材価格の高騰などの環境の変化に対応するため、スマート技術の導入や地域での農産物の利用拡大を推進していく必要があります。

3 特定区域が目指す姿

スマート技術など先端的な技術の活用による作業効率化と環境負荷低減の両立、担い手育成や生産力向上の取組を推進し、地域ぐるみでの環境負荷低減の取組拡大を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 自動操舵システムを用いた畜産堆肥等の有機質資材施用や播種作業など、環境負荷の低減に資する先端的な技術の活用により、生産現場の作業効率化と環境負荷低減活動の両立を推進します。
- ② 環境負荷の低減に資する先端的な技術を活用して栽培された農産物を学校給食で提供する等の食育・PR活動を推進します。



自動操舵システムによる大麦の播種作業

5 生産者の取組紹介

- ・ JA松任スマート農業研究会では、自動操舵システムを活用し、有機質資材を施用することにより、化学肥料の使用量の削減に取り組んでいます。
- ・ みどり認定を取得したことで、水稻及び大豆においても環境負荷低減の活動に取り組んでいます。
- ・ 今後も白山市で持続可能な農業を実践します。



JA松任スマート農業研究会のメンバー

6 問い合わせ先

石川県農林水産部生産振興課 TEL:076-225-1622
白山市産業部農業振興課 TEL:076-274-9540

24 石川県白山市

設定区域 鶴来地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

白山市では、沿岸部から山間地域までの広い地域的条件を活かし、稲作を中心とした多様な農林水産業が営まれ、良質な生産物が産出されています。鶴来地区では水稲で有機農業に取り組むほか、化学肥料・化学農薬の使用を減らした環境負荷低減の取組も行われ、有機農業の産地化の中心を担う地区です。



学校給食での有機栽培米の提供



白山市

2 地域の課題

農家の減少や高齢化のほか、農産物価格の低下や生産資材価格の高騰などの環境の変化に対応するため、スマート技術等の導入や地域での農産物の利用拡大を推進していく必要があります。

3 特定区域が目指す姿

スマート技術や有機質資材を活用し有機農業を推進するとともに、地域での有機農産物の利用拡大を図ることで、生産者の所得向上と担い手を確保し、有機農業の産地化を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① J A 白山有機米栽培プロジェクトにより、生産者・J A・市民団体が一体となり、有機栽培米の栽培体験をはじめとした、グリーンな栽培体系の確立や食育等に取り組んでいます。
- ② 学校給食に有機食材を活用するなど、食育・PR活動を通じて地域の食や農業への関心を高め、有機農業の産地化を目指します。



小学生による有機栽培米の栽培体験

5 生産者の取組紹介

- ・水田除草機等による作業効率改善や有機質資材の活用による有機農業を推進します。
- ・J A 直売所にて有機栽培米の販売スペースを設置し、消費者への環境保全型農業への周知と理解促進を図っています。
- ・特定区域に設定されたことで、地域ぐるみで推進しやすい環境になり、今後も有機栽培米の取り組みを推進していきます。



水田除草機での作業の様子

6 問い合わせ先

石川県農林水産部生産振興課 TEL:076-225-1622
白山市産業部農業振興課 TEL:076-274-9540

25 福井県越前市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

越前市は、耕地面積が県全体の1割程度でありながら、有機JAS認証農産物と化学肥料・農薬の使用を低減した特別栽培農産物の作付面積は県全体の3割、有機JAS水稻作付面積は、県全体の5割を超えるなど、コウノトリをシンボルとした多様な生き物を育む環境調和型農業の先進地です。



コウノトリ



越前市

2 地域の課題

農家の高齢化による担い手不足、耕作放棄地の拡大が深刻化しており、地域で有機農業を推進する上での課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

先進的に有機農業に取り組む法人の栽培技術をマニュアル化、さらにスマート農業を導入することで、技術の横展開や作業の効率化を進め、新たな有機農業者の育成、有機農業の規模拡大を目指しています。

4 生産者の取組への支援

- ① 有機農業の新規取組者に対し、実証ほにおいて先進的に有機農業に取り組む法人による技術指導を行い、掛かり増し経費を支援しました。
- ② 収量と食味値の双方が高くなる追肥適期を判断するべく、生育ステージの画像診断のためのデータ収集を進めています。
- ③ マーケットが大きい県外の特定の地域において、市場調査や試験販売を実施しながら販路を開拓し、販売促進に繋がります。



①技術指導



②生育調査



③軽井沢での試験販売

5 生産者の取組紹介

大屋ファクト株式会社では、有機農業産地づくり推進事業を活用し、有機栽培のノウハウを市内の先進有機農業法人から学び、面積拡大を行いました。また、横断幕による取組PRと消費者の理解醸成を図りました。



大屋ファクト株式会社のほ場

6 問い合わせ先

福井県農林水産部流通販売課 TEL:0776-20-0419
越前市役所環境農林部農政課 TEL:0778-22-3009

26 岐阜県白川町

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

白川町は岐阜県の中南部に位置し、地域の87%を山林が占める中山間地域です。急峻な山々から流れる清流の恵みを受け、水稻、夏秋トマトや銘茶白川茶を栽培しています。

令和5年にはオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業の推進を加速化しています。



白川茶の茶園



白川町

2 地域の課題

消滅可能自治体の調査報告に掲載されるなど、人口減少が顕著であり、特に農業の担い手確保が課題です。また、有機農業の栽培技術の蓄積・継承や多様な担い手の受け入れ体制の構築も課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

中核的農業の担い手である集落営農組織と同様に有機農業者を地域農業の担い手として位置づけ、町全域で持続可能な農業農村を目指し、農地の有効活用と荒廃農地の防止に努めます。

4 生産者の取組の支援

- ① 新規就農者に対して有機農業の技術勉強会を行い、有機農業者の増加と面積の拡大を目指します。
- ② 地産地消と町内の有機農業への理解を深める為、町内外への情報発信、学校給食への有機農産物の活用を支援するとともに、販売拡大に向け新商品の開発や共同出荷の流通システム構築に取り組めます。
- ③ 中核的農業の担い手である集落営農組織の環境負荷低減の取組を推進する為、スマート農業技術の導入等により省力化、高品質化、作業の平準化を図ります。



各種イベントに出展し活動をPR

5 生産者の取組紹介

ONPO法人ゆうきハートネット

平成10年に10名の農業者が、有機農業の生産技術の研さんを目的として設立し、現在44名の会員が加入しています。

木曽川水系の水源地域として、環境負荷低減農法の推進を中心に農業技術の伝承や生産者と消費者をつなぐ交流事業、食育や環境保全活動に取り組んでいます。



小学校での農業体験学習を支援

6 問い合わせ先

岐阜県農政部農産園芸課 TEL: 058-272-8415
白川町役場農林課農務係 TEL: 0574-72-1311

27 愛知県岡崎市

設定区域 オクオカ地域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

岡崎市は、乙川、男川、青木川という清流が流れ、豊富な水と肥沃な大地に恵まれており、水稻や露地野菜などの土地利用型農業が中心に行われています。

有機農業については、ブランド化されている茶をはじめとして、稲や野菜、果樹などの品目についても取組が広まりつつあります。

※岡崎市では、訪れた人が落ち着いた時間を過ごせる
“岡崎の奥座敷”という意味を込め、中山間地域を「オクオカ」と呼んでいます。



オクオカ地域（※）の風景



岡崎市

2 地域の課題

市の水道用水の約半分（20万人の使用相当）を取水する大切な水源地域であるオクオカを守り、農家の高齢化による担い手不足、荒廃農地の拡大といった課題に対応します。

3 特定区域が目指す姿

「岡崎の水」を守るために行うオクオカの有機農業をブランド化し、地域一体となって、有機農業の生産技術の確立や技術の普及、学校給食への導入、企業と連携した有機農産物の消費促進を行います。

4 生産者の取組の支援

- ① 有機農業の栽培技術の蓄積及び継承を積極的に行い、新たな有機農業者の増加、産地の維持・活性化を図ります。
- ② 地域内で生産された有機農産物の消費拡大を図るため、学校や企業等と連携し、地域内流通の構築や6次産業化等を推進します。
- ③ 都市部から農村部への人の流れを促進するため、半農半Xの推進を重点的に行い、持続的に有機農業を実践する農業者の担い手確保に取り組みます。



有機農業塾での栽培技術普及

5 生産者の取組紹介

○岡崎市ぬかたブランド協議会 有機農業部会

令和5年8月、地域の農林水産物のブランド化を推進する団体内に「有機農業部会」を設立しました。

地域内での有機農業の推進や有機農産物の学校給食への導入に取り組むほか、「みえるらべる」を取得した農産物をイベントで展示・販売することにより、環境負荷低減の取組PRを実施しています。



定例の有機農業部会会議

6 問い合わせ先

愛知県農業水産局農政部農業経営課

TEL: 052-954-6411

岡崎市役所中山間政策課

TEL: 0564-82-4123

28 兵庫県神戸市

設定区域 「人と自然との共生ゾーン」

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

神戸市では西北神に広がる里山農村地域で、生産地と消費地が近い利点を活かした都市近郊農業が盛んに行われています。

豊かな農業・農村地域を守るため、条例（人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例）で「人と自然との共生ゾーン」を指定し、農業の振興、農村の活性化・魅力化及び市民相互のふれあいを進めています。



農村地域の写真



神戸市

2 地域の課題

里山やため池など美しい農村景観に恵まれています。農家人口の減少や高齢化が進み、耕作放棄地が増加するなど、農村環境の維持が困難になりつつあります。

3 特定区域が目指す姿

里山の豊かな自然の恵みを享受し、次世代に残していくために、地域資源循環・環境保全に資する「こうべ里山SDGs農業」を推進します。

4 推進する生産者の取組

肥料原料の国産化に対応するため、市内家畜糞尿由来の堆肥や、下水処理の過程で回収したリン（こうべ再生リン）を配合した肥料である「こうべハーベスト」等の先進的な技術を活用し、有機農業をはじめとする地域資源循環型・環境保全型農業を推進します。



<https://kouhoushi.city.kobe.lg.jp/202211-todo-600/>

5 生産者の取組紹介

JA兵庫六甲こうべ旬菜部会

化学肥料・農薬の使用量を減らした栽培方法を積極的に取り入れ、地域の環境に配慮した農業に取り組んでいます。18品目の新鮮な野菜を市場や量販店に販売しているほか、学校給食にも提供されており、地域の資源を利用した環境にやさしい農産物（BE KOBE農産物）にも登録されています。



こうべ旬菜シンボルマーク
「菜葉（なな）ちゃん」



JA兵庫六甲こうべ旬菜部会
ホームページ



BE KOBE農産物ホームページ

BE KOBE



BE KOBE農産物ロゴマーク

6 問い合わせ先

兵庫県農林水産部総合農政課 TEL:078-362-9193
神戸市経済観光局農水産課 TEL:078-984-0379

29 兵庫県豊岡市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

豊岡市は「コウノトリも住める豊かな環境（自然環境と文化環境）は、人間にとっても持続可能で健康的に暮らせる素晴らしい環境であるに違いない」と考え、平成15年から農薬や化学肥料に頼らず、多様な生きものを同時に育む稲作技術として「コウノトリ育む農法」の取組を開始し、市内全域で取組面積の拡大を推進しています。



コウノトリ



豊岡市

2 地域の課題

生産者の高齢化が進んでおり、新規取組者の確保及び機械導入による省力化・省人化が必要です。また、生産者が計画的な生産を行えるよう、公共調達を含めた安定的な販路の確保が必要です。

3 特定区域が目指す姿

スマート農業技術の導入等による農業生産の省力化を推進し、「コウノトリ育む農法」の取組拡大（特に無農薬栽培タイプ）を市内全域で目指すとともに、販売促進活動に取り組みます。

4 推進する生産者の取組

- ① 「コウノトリ育む農法」の普及、技術伝承等を通じた有機農業の面的拡大（団地化）を推進します。
- ② スマート農業技術の導入等による農業生産の省力化、高品質化、作業の平準化を推進します。
- ③ 有機農産物の学校給食への提供、関連事業者等と連携した販路の拡大を推進します。



学校給食での提供の様子

5 生産者の取組紹介

コウノトリ育むお米生産部会

農薬の使用を制限するなど環境に配慮し、コウノトリの野生復帰を支える「コウノトリ育む農法」で水稻を栽培しています。

無農薬栽培の生産面積拡大を目指しています。
部会員252人 無農薬栽培面積 225.9ha



6 問い合わせ先

兵庫県農林水産部総合農政課 TEL:078-362-9193
豊岡市役所農林水産課 TEL:0796-23-1127

30 兵庫県養父市

設定区域

おおや高原

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

県下最高峰の氷ノ山など山々から流れる清らかな水、但馬牛のふんから製造する良質な堆肥、地域資源を活用した土づくりを中心とした農業が盛んな養父市。中でもおおや高原は、平成初期に葉物野菜の有機栽培をはじめて以降、「おおや高原有機野菜部会」として構成員全員が有機JAS認証を取得し、事業継承しながら受け継がれてます。



おおや高原上空写真



養父市

2 地域の課題

中山間地域に位置する本市は農家の高齢化による担い手不足、耕作放棄地の拡大が深刻化しています。また、農地区画が狭小なため、営農の大規模化が困難であり、農業者の収益の向上が課題です。

3 特定区域が目指す姿

有機農業の技術継承を積極的に行うことで新たな有機農業者の増加、産地の維持・活性化を図るとともに、有機農業等の実践による農産物生産の高付加価値化で儲かる農業を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 県と連携して新技術の研修や実証
- ② スマート農業技術の導入等による農業生産の省力化、高品質化、作業の平準化の推進
- ③ 技術継承のための研修カリキュラムの作成
- ④ 共同集出荷システムの活用による出荷作業の効率化と流通拡大の推進



→
新技術の研修会

←
大屋野菜集出荷場



5 生産者の取組紹介

おおや高原有機野菜部会（構成員9名）

高原という冷涼な立地を活かし、ほうれん草など葉物野菜の長期間栽培に取り組んでいます。近年の猛暑で育成が難しくなっているため、育成予測システムの実証等、県と連携して収穫量の拡大を目指しています。また、収穫機の導入、共同集出荷場の機械更新と作業動線の見直しなどを行い、作業の効率化と販売拡大を図っています。



6 問い合わせ先

兵庫県農林水産部総合農政課 TEL:078-362-9193
養父市役所農林振興課 TEL:079-664-0284

31 兵庫県丹波市

設定区域 全域

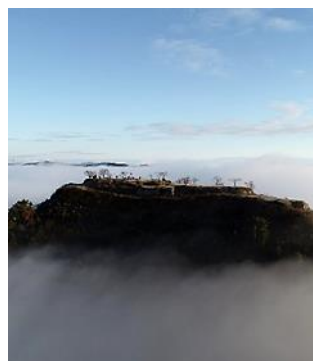
有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

丹波市は南北に縦断する低地帯「氷上回廊」と山々が織りなす特徴的な地形が、豊かな自然や文化、歴史を育んでおり、小規模な農業経営体を中心に、水稻主体の土地利用型農業が展開されています。1975年から続く有機農業や伝統農業の技術継承と社会との調和を目指しています。



「丹波霧」



丹波市

2 地域の課題

農家戸数の減少や農業者の高齢化が進行する中で、地域農業を支える担い手の確保と、農業者が生産した農産物の流通・消費に取り組む支え手の確保が課題です。

3 特定区域が目指す姿

生産者だけでなく広く市民や企業がそれぞれの立場で参画し、手を取り合いながら生産から消費まで一貫して取り組むことで、『有機の里』として市全域での有機農業の産地化を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 市島有機センターを核とした家畜由来堆肥の製造・供給による有機農業の面的拡大（団地化）を推進します。
- ② 先進農家と新規就農者・転換農家が一体となって産地全体で取り組む里山の資源・資本を活かした有機農業を推進します。
- ③ スマート農業機械等の先端技術を活用した化学肥料・化学農薬の使用量低減の取組を推進します。



堆肥「市島ユーキ」



アイガモロボの活用



栽培技術研修の開催

5 生産者の取組紹介

丹波市有機農業研究会

次世代により良い未来を手渡し、健全な食、豊かな自然、しっかりとした生活文化を残していくために、幅広く連携・協力するネットワーク組織として、安定生産・安定供給ができる農業生産方法や部会体制など、日々、研究と普及活動を行っています。



お米のことを
いちばんに考えました



6 問い合わせ先

兵庫県農林水産部総合農政課 TEL:078-362-9193
丹波市産業経済部農林振興課 TEL:0795-88-5028

32 奈良県天理市

設定区域

高原地区（長滝町・福住町・山田町）

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

天理市高原地区は、奈良県北東部にある標高400～500mの大和高原地域に位置する中山間地域です。冷涼な気候を活かした大和茶の産地でしたが、担い手の高齢化や後継者不足が進んでいます。農業者と地域住民が一体となって、放棄茶畑を活用したオーガニックのお茶づくりに取り組み、令和6年3月にはオーガニックビレッジ宣言を行いました。



高原地区の茶畑



天理市

2 地域の課題

以前は茶の生産が盛んでしたが、現在では担い手不足により放棄茶畑が点在している状況です。放棄茶畑を長期間化学農薬・化学肥料を使用していない有機農業に適した茶畑であると捉え、取組を開始しました。

3 特定区域が目指す姿

国内外のオーガニックのお茶に対する需要の高まりを踏まえ、放棄茶畑を活用した新たなオーガニックのお茶づくりに取り組むことで、有機農業による付加価値の高い農産物生産の推進を図ります。

4 生産者の取組の支援

- ① 放棄茶畑の再生による「三年晩茶」の栽培を推進し、茶の栽培面積の拡大、生産者の増加を図ります。
- ② 地域の耕作放棄地等で茶にブレンドする作物（トウモロコシ、黒豆、ハーブ等）などの有機栽培に必要な土壌診断や堆肥診断の実施を支援します。
- ③ 有機農業の特徴・知識の普及啓発を行うワークショップを開催します。



土壌分析の専門家を招いたワークショップ

5 生産者の取組紹介

地域農家13人で設立した福住地域営農組合は、耕作放棄地等において、土壌診断などを行うことで科学的に成功しやすい有機農業を目指し、大和ルージュやサツマイモ、味まるみ大根などを栽培し年々面積を拡大。

今後もさらなる面積拡大を目指すと同時に、規格外有機栽培農産物を活用したスープなどの加工品の開発を行い、有機農業の普及拡大に努めています。



6 問い合わせ先

天理市総合政策課

奈良県食農部農業水産振興課

TEL:0743-63-1001

TEL:0742-27-7442

33 奈良県宇陀市

設定区域 おおうだ はいばら
大字陀・榛原地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

宇陀市は奈良県東部の大和高原地域に位置し、夏季冷涼な気候に恵まれること等から、施設野菜を中心とした有機農業が盛んな地域です。大字陀・榛原地区を中心に有機JAS認証を取得した経営体が所在しており、有機農業産地づくりの中心的役割を果たしています。

令和4年12月、全国に先駆けてオーガニックビレッジ宣言を行いました。



宇陀市

2 地域の課題

有機農業を推進していくために、規格外農産物の活用によるロス低減や、生産性の向上、畜産堆肥等未利用有機質資材の活用による循環型農業の実践、販売先の確保、担い手の確保・育成が課題です。

3 特定区域が目指す姿

担い手の確保・育成に取り組み、生産性を向上するとともに、学校給食やイベント等での食育・消費PR活動を通して、地域の食や農業への関心を高め、有機農産物の消費拡大を図ります。

4 生産者の取組の支援

- ① 有機農業の新規就農者への研修会の開催や市内畜産堆肥による有機資材の提供を行い有機農業者の増加を図ります。
- ② 規格外品を活用した加工品開発、長期鮮度保持の実践などを通して、生産・流通・消費の各工程でのフードロスを削減します。
- ③ 学校給食等での食育・PR活動、イベントやHPでの情報発信を行うなど、有機農産物の消費拡大を図ります。



展示会でのPR活動

5 生産者の取組紹介

有限会社山口農園（有機農業）

- ・栽培品目：ほうれんそう、こまつな、しろな等
- ・取組規模：4.46ha（ハウス168棟）

新規就農希望者への有機栽培技術研修、規格外農産物を活用した加工品の開発などを通じて、有機農業の普及拡大に努めています。令和5年12月、全国初となる特定みどり認定を受けました。



6 問い合わせ先

宇陀市農林課

奈良県食農部農業水産振興課

TEL:0745-82-3679

TEL:0742-27-7442

34 島根県^{はまだ}浜田市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

浜田市は、島根県西部の日本海を望む位置にあり大部分が丘陵地や山地であるため、まとまった平地は少ないが、豊かな自然を有しています。有機JAS認証の認定農業者数は県内トップにあり、施設での軟弱野菜の有機栽培が盛んです。令和5年にはオーガニックビレッジ宣言を行い、地域ぐるみで有機農業を推進しています。



水稲耕作の様子

浜田市

2 地域の課題

高齢化による農家の減少・遊休農地の増加が課題です。

また、有機米の収量増・安定に向けた栽培体系の確立も課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

有機米や有機野菜の栽培実証や有機給食の実進を進め、「いかしあうつながり（有機的な関係性）によって浜田市の大地と海、風土をはぐくみ続けるまち」を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 企業等と連携し、自動抑草ロボット「アイガモロボ」やNPO法人 民間稲作研究所の省力・低コスト稲作の生産技術の導入・普及を行います。
- ② 有機生産者かもみ殻燐炭を土壌改良資材として活用し、J-クレジット制度を活用できるような仕組みを作ります。
- ③ 生き物調査などを通じて、市民が農業に関わる機会を作り、生物多様性保全等の環境に優しい農業への意識醸成を図ります。また、生物多様性を「みえる化」することで農産物の付加価値向上につなげます。



生き物調査の様子

5 生産者の取組紹介

株式会社 小松ファーム

もみ殻燐炭を農地に施用した有機ニンジンを生産しています。「みえるらべる」を取得し、環境に優しい農業に取り組みます。また、子どもたちの環境教育の一環としてCO2削減給食、「みえるらべる」給食の食材を提供します。



6 問い合わせ先

島根県農林水産部産地支援課 TEL: 0852-22-6704
浜田市役所農林業支援センター TEL: 0855-22-3500

35 島根県江津市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

江津市は島根県の中央部に位置し、中山間地が面積の約8割を占めています。市では、付加価値の高い少量多品目栽培や希少性のある作物の栽培に力を入れ、有機農業にも取り組んでいます。

令和6年には、オーガニックビレッジ宣言を行っています。



江津市の野菜栽培の様子

江津市

2 地域の課題

農業者が高齢化している中で、中山間地域での農作業の負担が大きく生産性の低下が懸念されるため、有機農業による付加価値の向上や機械導入による省力化を図っていきます。

3 特定区域が目指す姿

「産業としての有機農業」と「暮らしの一部としての有機農業」を両輪に、生産者、流通・販売者及び消費者等が連携して江津市から「オーガニックな暮らし」を発信していくことを目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 学校給食用米の全量有機米と、畑作物における有機農産物の導入拡大を目指します。
- ② 生産団地内に各種実証圃場を設置し、県やJAと連携した栽培技術研修等を実施し、栽培技術とノウハウの共有を図ります。
- ③ 市内飲食店と連携した食イベントを継続しながら有機農産物の生産状況の見える化に取り組みます。



除草機械を用いた有機水稻栽培実証

5 生産者の取組紹介

- ・江津市では、有機米の栽培を行う生産者が、お互いのほ場に出向き、栽培管理の視点や具体的管理方法について意見交換を行うことで、栽培管理におけるリスクに対する対応等を学ぶ勉強会を開催しています。



6 問い合わせ先

島根県農林水産部産地支援課
江津市役所農林水産課

TEL: 0852-22-6704
TEL: 0855-52-7493

36 島根県美郷町

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

美郷町は島根県のほぼ中央に位置し、その南北を中国地方最大の「江の川」が貫流し、緑豊かな山々に囲まれ、四季折々の美しい姿が見られます。ニューノーマルや脱炭素化など未来の社会を見据え、新エネルギー活用・CO₂排出削減などに積極的・先進的に取り組み、2021年には「ゼロカーボンシティ先進地」を宣言しました。



田之原展望台から望む江の川



美郷町

2 地域の課題

当該地域では、基幹的農業従事者数の長期減少傾向に歯止めがかからず、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加が年々深刻となってきています。

3 特定区域が目指す姿

ソーラーシェアリングを核にして、再生可能エネルギーを最大限活用した『魅力ある農業』を確立し、その取組に共感する人材を呼び込み、担い手として育成することで地域の農業の活性化を図ります。

4 推進する生産者の取組

- ① 営農型太陽光発電により発電した電力を施設園芸用ハウスに供給する脱炭素型の施設園芸栽培を、町営リース方式を中心に推進します。
- ② ①と併せて行う、発電した電力を農業機械やバッテリー交換型の電動草刈機などの農業用機械の動力として活用する取組を推進します。
- ③ 上記の取組で生産した農産物を「脱炭素農産物」としてのブランド化を目指しつつ、収益性の向上を図る販売方式の共通化の取組を推進します。



令和6年度中に農業研修施設が完成
上記は研修施設内の太陽光発電設備
複数名が研修(移住)予定

5 生産者の取組紹介

農業特化型三セク法人が町をはじめとする関係機関との連携によって研修生の指導を行い、新たな人材の学びや育成の場として、将来にわたる町の農業の担い手を支援します。また、電動農機具の試験的な運用や実作業での活用を検討しています。将来は、「農機具シェアリング」や「農作業の分業化(作業受託)」など農業支援サービス事業体としての体制構築を目指しています。



ほ場でのラジコン除草機のデモの様子

6 問い合わせ先

島根県農林水産部産地支援課
美郷町役場産業振興課
ゼロカーボン農業モデル推進室

TEL:0852-22-6704
TEL:0855-75-1214

37 島根県津和野町

設定区域 須川地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

津和野町は島根県の西端にあり、豊かな森林やダムのない日本唯一の一級河川・高津川等の自然にも恵まれており、生産されるわさびや山菜、栗、サトイモ等の農産物は高い評価を得ています。

また、「第2期まち・ひと・しごと創生津和野町総合戦略」においても有機農業を推奨しています。



須川地区の農地の様子



津和野町

2 地域の課題

有機農業を拡大するにあたり、耕作放棄地の更なる活用やUIターンでの新規就農者の受け入れ態勢整備が必要になっています。

3 特定区域が目指す姿

職業としての農業の魅力を高め担い手を確保するために「有機農業」を推奨し、環境への配慮や農作物の安全・安心に重きを置きながら、持続可能な農業経営の実践を目指しています。

4 生産者の取組の支援

- ①生産者が活用できるように牛ふん・竹チップ等の地域資源を用いた堆肥製造と土づくりの実践を行います。
- ② 有機農産物の地産地消による地域内循環の確立を目指し、地元農産物直売所の売り場を確保し、また、マルシェを開催します。
- ③ UIターンでの新規就農者を積極的に呼び込むための受け入れ態勢を整備します。



農業体験などを通じて
消費者理解を広める取組

5 生産者の取組紹介

須川地区では、足踏み温床（枯草が有機分解する際に出る発酵熱を利用した発熱施設）により育苗を行い、有機農業など環境負荷をなるべく減らす栽培方法を実践しています。



6 問い合わせ先

島根県農林水産部産地支援課
津和町役場農林課

TEL: 0852-22-6704
TEL: 0856-72-0653

38 広島県神石高原町

設定区域 神石地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

神石高原町は標高500m～700mに位置する町であり、昼夜の寒暖差により良質な米や野菜が生産されており、神石牛をはじめ、トマト、ぶどう、こんにゃくの産地となっています。

神石地区では有機栽培のほ場が多く、有機農業の産地育成に取り組んでいます。



有機水田が広がる
神石地区



神石高原町

2 地域の課題

農業従事者の高齢化や新規就農者の育成が厳しく、耕作放棄地の増加や担い手不足等の多くの課題だけでなく、中山間地域での農業生産の維持が課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

農研機構との連携や交付金の活用などを通じて、有機栽培面積及び有機農業者の増加を図り、有機農業の生産団地の形成・産地育成を目指しています。

4 生産者の取組の支援

- ①「神石高原有機農業推進協議会」を中心に、毎年ほ場の土壌分析と診断結果に基づく施肥の実施を行います。
- ② 農研機構と連携した町内の有機質資材を活用した堆肥の試作等や「土づくりマニュアル」の作成等の成果を地域で有効活用します。
- ③「特定非営利活動法人オーガニック&メディカル七福神」と連携し、学校給食への提供や直売施設での販売を通じ、販路拡大に取り組めます。



直売施設の様子



学校給食への提供



落ち葉堆肥の作成



土壌分析

5 生産者の取組紹介

かたつむりの会

(取組の概要) 平成16年に結成。現在の生産者は4名。環境に優しい農産物を栽培し、福山市、尾道市内の会員(46世帯)に週1回、配送しています。毎年4月にお花見会、11月には尾道健康まつり、地元にて収穫感謝祭を開催し、生産者と消費者のふれあいや、繋がりを大切にしています。

(今後の目標)新規就農者の確保並びに面積の拡大を目指しています。

(特定区域の設定で変わったこと)落ち葉堆肥の作成、土壌分析と診断に基づく施肥の実施を行い、有機農業の基本である良質な土作りに取り組んでいます。



かたつむりの会の皆様

6 問い合わせ先

広島県農林水産局農業技術課
神石高原町産業課

TEL: 082-513-3585
TEL: 0847-89-3337

39 徳島県徳島市

設定区域

かわうちょう
川内町

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

徳島市は徳島県の東部に位置し、吉野川とその支流がつくり育てた三角州に発達した市であり、豊かな自然や温暖な気候を活かし、多くの野菜が栽培されています。

当該地域では、れんこん農家やＪＡ、徳島市などが参画する「れんこん持続農業協議会」を令和３年に発足し、環境に優しい農業に取り組んでいます。



れんこん畑



徳島市

2 地域の課題

病害等で反収が減少するなか、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加、販売価格の低迷、鳥獣被害の増加等が課題となっており、内外情勢の変化や多様なニーズに対応できる新たな取組が必要となっています。

3 特定区域が目指す姿

れんこん栽培におけるＩＰＭ（環境に優しい病虫害防除）や先端技術を活用した環境負荷低減の実証に取り組み、新たな技術が地域に相当程度導入されることを目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 堆肥や微生物資材を活用した土づくりによる化学肥料使用量の低減を推進します。
- ② ドローンを用いた農薬の局所施用など先端技術を活用し、化学農薬使用量の低減を推進します。
- ③ 実証ほ場で効果の検証を行い、生産部会全体での普及推進を図ります。

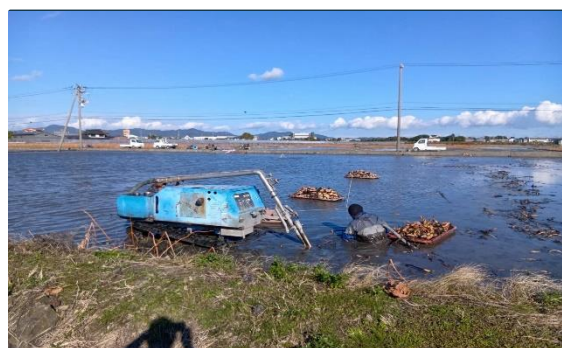


土づくりに使用している堆肥

5 生産者の取組紹介

れんこん持続農業協議会

- ・ 取組の概要：堆肥の有効利用等の継続と再検証を続け「環境に優しい農業技術」をバージョンアップしています。
- ・ 今後の目標：品質の向上、反収の増加により地域の「農業環境を守る生産者グループ」として、活動を強化していきます。



れんこんの収穫

6 問い合わせ先

徳島県みどり戦略推進課
徳島市農林水産課

TEL：088-621-2423
TEL：088-621-5252

40 徳島県小松島市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

小松島市は勝浦川、那賀川の両流域に広がる肥沃な土壌と恵まれた気象条件のもと、水稻を主体に多様な農業生産を展開しています。平成22年に有機農家などで構成される「小松島市生物多様性農業推進協議会」を発足させ、特別栽培や有機農業等を推進することにより、持続可能な循環型農業の推進や安全・安心な農産物の供給などに取り組んでいます。



生き物調査の様子



小松島市

2 地域の課題

農業者の高齢化、担い手不足、自然災害の増加、生産資材の高騰及び農産物価格の低迷が課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

需要の高まっている有機農産物について、技術普及やブランディングなど、生産から流通、加工、消費までの一貫した地域ぐるみの取組を進め、地域内における有機農業の面的拡大を推進していきます。

4 生産者の取組の支援

- ① 土壌中の有用な微生物の活性を高める有機農業技術を導入します。
- ② 成果を挙げている有機農業者や関係機関と連携・協力し、技術を普及・拡大するための研修会を実施します。
- ③ 水稻の有機農業の団地化を促進するとともに消費者へのPR活動を行い、市内の有機農産物の利用等を推進します。



研修会の様子

5 生産者の取組紹介

JA東とくしま特別栽培米生産者部会

- ・令和5年12月に有機農業の取組拡大に向けた特定環境負荷低減事業活動実施計画を策定・認定。
- ・学校給食において栽培期間中化学肥料及び化学合成農薬不使用の米を導入することにより、環境負荷低減の稲作技術を消費者と生産者で共通認識とするための活動を実践しています。



米の栽培風景

6 問い合わせ先

徳島県みどり戦略推進課
小松島市農林水産課

TEL : 088-621-2423
TEL : 0885-34-9292

4 | 徳島県阿南市

なかがわちょう、はのうらちょう
設定区域 那賀川町、羽ノ浦町

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

阿南市東部の那賀川の中・下流域に位置し、東は紀伊水道、南は太平洋に臨み、北は小松島市、勝浦町に接し、西は四国山系の東端に連なる山地と沖積平野からなっています。

水稻を主要作物とした土地利用型農業や施設園芸農業が定着しており、地域と担い手が一体となった生産体制の構築に向け取り組んでいます。



特別栽培米「あいさい一楽米」の販売



阿南市

2 地域の課題

農業者の高齢化が進み、後継者不足や遊休農地の増加が課題となっています。また、農作業の効率化を図るため、担い手への農地の集約化やほ場拡大等を検討していく必要があります。

3 特定区域が目指す姿

農業者主導での環境負荷低減技術に関する研究会等を実施し、個人農家や農業法人が独自の販売先を確保した上で、地域の関係機関が一体となり、有機米の栽培を促進し、団地化の促進を進めます。

4 生産者の取組の支援

- ① 土づくり実証ほ場の設定、有機栽培マニュアルの作成、実需者との意見交換を実施します。
- ② JAや県農業支援センター等の地域の関係機関と連携し、水稻を中心とした有機農業の拡大及び団地化を促進します。



講習会の実施

5 生産者の取組紹介

JA東とくしま特別栽培米生産者部会

- ・令和5年12月に有機農業の取組拡大に向けた特定環境負荷低減事業活動実施計画を策定・認定。
- ・土壌診断や栽培暦による研修会の実施や各種イベント参加による消費者理解や販売の促進などに取り組んでおり、今後さらに水稻を中心とした有機農業の拡大・団地化を目指します。



田植体験会の実施

6 問い合わせ先

徳島県みどり戦略推進課
阿南市農林水産課

TEL : 088-621-2423
TEL: 0884-22-1598

42 徳島県阿波市

いちばちょう、あわちょう
設定区域 市場町、阿波町

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

阿波市では平野部から山間部、吉野川の川中島である善入寺島に至るまで、自然豊かで広大な田園と整備された農業施設のもと多種多様な農業生産を行っています。

阿波市では盛んな畜産を背景にたい肥を活用し、水稻や野菜類の有機栽培の普及拡大に取り組んでいます。



善入寺島



阿波市

2 地域の課題

農業者の高齢化が進み、担い手不足が課題となっています。また、市場価格の低迷や業務用需要の減少、農業資材・燃油価格の高騰により、農業経営の維持・安定化が課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

「特産品認証制度」の普及・浸透及び販売PRを行うことで生産販売体制を強化し、有機農業に取り組んでいる農業者の規模拡大や若手農家の有機農業への切り替え等により、有機農業の面的拡大を進めます。

4 生産者の取組の支援

- ① 「阿波市のいいものブランド」の創出や「阿波ベジファーストプロジェクト」により、野菜・果物の栄養価や機能性に関する広報等を展開します。
- ② これらのブランディングも含め、野菜、水稻の有機農業の団地化を推進します。



阿波市特産品認証制度認証品パンフレット

5 生産者の取組紹介

あぐりアワー緑の会

名前のとおり、みどりの食料システム戦略で掲げる、2050年までに有機農業の面積を25%に増加させるという目標に寄与するため、環境に優しい持続可能な農業の担い手となる人材の育成や栽培技術の開発、食育及び地産地消の推進活動、学校給食に阿波市の有機農産物を使用することなどを目指しています。



あぐりアワー緑の会

6 問い合わせ先

徳島県みどり戦略推進課
阿波市農業振興課

TEL : 088-621-2423
TEL : 0883-36-8720

43 徳島県海陽町

かいようちょう
のえ たかぞの
野江地区、高園地区

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

海陽町は徳島県の最南端に位置し、南東の海岸線は太平洋を望み、高知県と隣接しており、温暖な気候豊富な山海の恵みのもと農業に取り組んでいます。

海陽町では、関係機関と連携し、町内での就農を前提とした研修「きゅうり塾」を実施し、移住を伴った担い手育成により、産地の再生に取り組んでいます。



きゅうりの栽培風景



海陽町

2 地域の課題

農業従事者の高齢化が進んでおり、遊休農地や耕作放棄地が点在しているため、新たな農地の受け手の確保が必要となっています。

3 特定区域が目指す姿

移住就農者獲得を目指した「きゅうり塾」の取組を含む「きゅうりタウン構想」のもとで、担い手の定住と先端技術の普及による化学農薬の使用量低減を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 複合耐病性品種の導入及び天敵の活用により、農薬の散布作業の省力化と使用量の低減に取り組めます。
- ② 日照量、温度、炭酸ガス等を管理する施設内環境測定機器の導入による温室効果ガスの排出削減など、次世代的な栽培方法の確立を図ります。



養液栽培ハウス内風景

5 生産者の取組紹介

環境制御技術の導入により、温湿度管理や肥培管理を適切に行うことが可能となりました。また、養液土耕栽培を導入することにより、灌水・施肥にかかる作業時間が大幅に削減されました。更には、天敵利用技術を導入することで、農薬散布回数の削減にも成功しました。

今後もこれらの技術を活用して、農薬散布回数を減らしつつ収量増を望むことができるような技術を身に付け、産地の維持・発展に寄与します。



栽培に取り組むきゅうり農家

6 問い合わせ先

徳島県みどり戦略推進課
海陽町産業振興課

TEL : 088-621-2423
TEL : 0884-73-4161

44 高知県馬路村

設定区域 全域

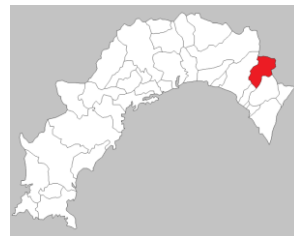
有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

馬路村は、高知県の東部に位置し、かつては林業で栄えた村。昭和の中頃にゆず栽培を始め、平成13年から全てのゆず農家が有機に準じた栽培に取り組み、令和3年度の耕地面積に占める有機農業率が81%と全国1位となっています。より一層の有機農業を推進していくために「馬路村有機農業実施計画」を策定し、「オーガニックビレッジ」を宣言しています。



有機農産物ゆず

馬路村

2 地域の課題

村内で生産されたゆずの販路拡大に取り組んでいる中で、収穫量の維持・拡大が望まれています。農家の高齢化が進んでおり、農地の維持が課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

有機循環農法やスマート農業の導入等を推進するとともに、新商品の開発やゆず加工品のPR、学校給食への提供を行い、有機農業の産地育成に取り組んでいきます。

4 生産者の取組の支援

- ① 土づくりやゆずの加工残渣を利用した肥料の施肥（有機循環農法）、スマート農業を導入した生産活動を推進します。
- ② 関係機関と連携し、収穫時期の労働力確保を行います。
- ③ 輸出版売事業確立のためのゆず加工品のPRの拡充や新商品の開発、学校給食への提供による食農教育の推進を行います。



ゆず加工品

5 生産者の取組紹介

【目標】

- ①有機農業取組面積拡大（R4：39ha → R10：40ha）
（うち有機JAS認証取組面積 R4：6.94ha → R10：7ha）
- ②有機農業取組経営体数の増加（ゆず）
（R4：93経営体 → R10：103経営体）
（うち有機JAS認証数 R4：12経営体
→ R10：13経営体）



ゆず生産者

6 問い合わせ先

高知県農業政策課
馬路村役場地域振興課

TEL: 088-821-4510
TEL: 0887-44-2114

45 高知県本山町

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

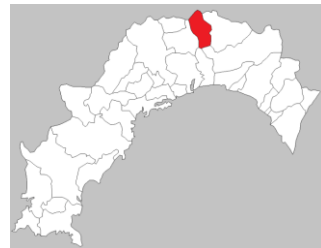
先端技術

1 地域の特徴

本山町は高知県の中央北部に位置する自然豊かな町であり、環境に配慮した農業の推進及び耕畜連携を図る振興計画を策定し、環境保全を考慮した農業を展開しています。木質バイオマス発電所の廃熱や排ガスを次世代型園芸施設で利用する農業クラスター事業を展開しています。また、ペレット堆肥の利用促進に取り組んでいます。



パプリカを生産する次世代型園芸ハウス



本山町

2 地域の課題

農家戸数の減少や農業者の高齢化が進行する中で、地域農業を支える担い手の確保と、農業者が生産した農産物の流通・消費に取り組む支え手の確保が課題です。

3 特定区域が目指す姿

県内で初めてトリジェネレーションを実現した次世代型園芸施設の活用や、運搬・散布しやすくペレット化した牛ふんの堆肥の利用を促進し、地域ぐるみの環境負荷低減活動の普及拡大を目指します。

4 推進する生産者の取組

- ① 木質バイオマス発電所で発生する廃熱や排ガス（CO2）を次世代型園芸施設で活用し、温室効果ガスの排出を削減する取組を推進します。
- ② 水稻等の品目で土壌診断と合わせて、土佐あかうしの牛ふんペレット堆肥の利用を促進し、環境負荷低減の取組を推進します。
- ③ 堆肥センターや畜産関係者、農家等の生産者のつながりを強化するため会議を開催します。



木質バイオマス発電所と次世代型園芸施設

5 生産者の取組紹介

本山町全域を特定区域に設定し、バイオマス発電施設の廃熱等の施設園芸での利用や、土佐あかうしの牛糞ペレット堆肥を活用した化学肥料低減を通じて、環境に配慮した農林業を意識する取り組みを継続します。



牛糞ペレット堆肥の活用を検討する会議

6 問い合わせ先

高知県農業政策課

TEL: 088-821-4510

本山町役場まちづくり推進課

TEL: 0887-76-3916

46 長崎県雲仙市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

雲仙市は、長崎県の島原半島西部に位置する市であり、良好な環境の保全と創造に向けた環境行政を推進するため、令和3年に「雲仙市環境基本計画」を策定し、環境保全型農業を推進しています。

現在、14の経営体が有機農業に取り組んでおり、直売所と連携し有機農業のPRや有機農産物のフードロス対策に取り組んでいます。



雲仙のおしどりの池湖畔



雲仙市

2 地域の課題

有機農業の面積拡大が課題であり、有機JAS認証の取得補助のほか、販路拡大に向けた取組、伝統野菜など有機農業ほ場の団地化など、有機農業に転換しやすい環境の整備が必要です。

3 特定区域が目指す姿

慣行農家等が抱える有機農業へのイメージ向上を図り、新規就農者が有機農業に組みやすい環境や、慣行農家や減農薬栽培に取り組む農家が有機農業に転換しやすい環境整備を進めます。

4 生産者の取組の支援

- ① 「雲仙市有機農業推進協議会」の活動を中心として、有機農業の生産から販売までを支援します。
- ② 幅広い世代に有機農産物への関心を持たせるため、イベントの開催等により有機農業に取り組む農業者の活動をPRします。
- ③ 学校給食に有機農産物を活用し、子どもを通じて家庭内の有機農業への関心を高めます。



【PRイベント「自然にやさしい農業に親しむ会」の様子】

5 生産者の取組紹介

本市の有機農業のリーダー的存在である岩崎政利氏は、在来種野菜の自家採種を繰り返し、環境対応させることで伝統野菜の継承を続けています。

環境対応の過程で有機農法を採用しており、有機農業・有機農産物のPRイベントにも積極的に参加するなど、生物多様性を保持した農業を広める活動に取り組んでいます。



6 問い合わせ先

長崎県農業イノベーション推進室 TEL: 095-895-2933
雲仙市役所農林課 TEL: 0957-47-7828

47 長崎県南島原市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

南島原市は、肥沃な大地と豊かな自然、温暖な気候に恵まれており、農業を基幹産業として発展してきた地域であり、市民の環境意識を高めるために「南島原市脱炭素全体計画」を策定しています。

有機農業の生産から消費まで一貫通貫した体制づくりに向け、令和5年3月に県内で初めてオーガニックビレッジ宣言をしました。



有家町の鮎帰の滝



南島原市

2 地域の課題

有機農業の面積拡大が課題であり、圃場整備の推進や後継者の確保に向けて、有機JAS認証の取得補助、新規就農者の受け入れ農家に向けた体制整備など有機農業に取り組みやすい環境づくりが必要です。

3 特定区域が目指す姿

有機JAS認証取得補助や新規就農者の受け入れ体制整備、家畜ふん堆肥等の地域資源の活用検討などを行い、生産から消費まで一貫して取り組む体制を構築し、有機農業に取り組みやすい環境づくりを進めます。

4 生産者の取組の支援

- ① 「南島原オーガニック協議会」を中心に、主に玉ねぎの有機農業に関する技術体系の確立や圃場整備等を推進します。
- ② 有機JAS認証の取得補助や新規就農者の受け入れ農家に向けた体制整備など、有機農業に取り組みやすい環境づくりを進めます。
- ③ 消費者に向けたPR活動や学校給食への提供を行い、有機農業への関心を高める取組を行います。



市内初のオーガニック給食

5 生産者の取組紹介

ながさき南部生産組合、長崎有機農業研究会、供給センター長崎と3つの団体が市内の各地域で有機農業に取り組んでいます。

オーガニックビレッジ宣言をきっかけに、有機米の試験栽培や学校給食への食材提供など有機農業に関心を持ってもらえるような活動を行っています。



6 問い合わせ先

長崎県農業イノベーション推進室 TEL: 095-895-2933
南島原市役所農林水産部農林課 TEL: 0957-73-6661

48 宮崎県えびの市

設定区域 いいの 飯野地区東部

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

えびの市は宮崎県、鹿児島県、熊本県の三県の境界にあり、消費地にアクセスしやすい立地を活かし、水稻、イモ類、露地野菜などの栽培を行っています。また、本市は南部に霧島錦江湾国立公園があり、豊かな自然環境に恵まれ、希少動植物も多数生息しているため、農業者の環境への意識も高く、エコロジカルタウンえびの推進協議会を立ち上げ、有機農業や地域資源の活用した農業に取り組んでいます。



国立公園指定
「霧島」90周年
シンボルマーク



えびの市

2 地域の課題

有機農業と慣行農業の共存の課題（化学肥料・農薬の有機農業ほ場への流入・飛散防止や、慣行農業ほ場への病虫害の飛来防止等の対策）を解決する必要があります。

3 特定区域が目指す姿

有機農業と慣行農業の共存を図るために、基盤整備を行い有機農業と慣行農業のゾーニングを計画し、有機農業の生産から消費まで一貫した産地づくりを目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① ゾーニングによる化学肥料・農薬の有機農業ほ場への流入や飛散の防止、病虫害の慣行農業ほ場への飛散防止など、有機農業者と慣行農業者の共存を図るとともに有機農業取組面積の増加と団地化を進めます。
- ② 有機農産物を学校給食に提供するとともに、「道の駅えびの」を活用した展示・販売や通販・ECサイトを利用し、えびの市産有機農産物のブランド化を目指します。
- ③ 有機農業者等で構成された組織「オーガニックファーマーズえびの」による研修会や技術講習会を実施します。【有機農産物マルシェの開催（道の駅えびの）】



5 生産者の取組紹介

株式会社本坊農園

（取組の概要）エコロジカルタウンえびの推進協議会の会長を務め、地域の堆肥を使った有機農業に長年取り組んでおり、農園の雇用者が有機農業の技術を習得した後、独立就農するなど地域の有機農業の推進に貢献しています。
（今後の目標）市内の有機農産物の統一的な栽培方法を確立し、面積・生産量を増やすことで産地化を図ります。
（特定区域の設定で変わったこと）地域の住民や慣行農業者の理解を得ることができ、共存を図ることに繋がっています。また、特定地域においてモデル的に有機農業の振興を図ることで、市内全域に取組が広がることを期待します。



エコロジカルタウン
えびの推進協議会

6 問い合わせ先

宮崎県農業普及技術課 TEL: 0985-26-7134
えびの市畜産農政課 TEL: 0984-35-1650

49 宮崎県宮崎市

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

宮崎市は、九州南東部に位置し、冬季に温暖で日照時間の長い気候条件を生かして、野菜や果樹、花きの施設園芸を基幹とし、早期水稲と畜産を組み合わせた複合経営を行っています。

令和6年5月に化学農薬・化学肥料低減、有機農業の面積拡大に向けた取組推進のために、「宮崎市みどり農業推進協議会」を設立し、官民一体となって取り組んでいます。



宮崎市制100周年記念
キャラクター「みやねこ」



宮崎市

2 地域の課題

有機農業の普及には、慣行栽培を行う生産者との連携が不可欠です。

また、有機農産物に対する消費者の理解醸成を図ることが課題となっています。

3 特定区域が目指す姿

「宮崎市みどり農業推進協議会」を中心として、宮崎市における有機農業や有機農産物に対する消費者の理解醸成を図り、消費や販路の拡大と有機農業の取組面積の拡大を目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 特定区域において有機農業に取り組む農業者や、新たに有機農業への転換を検討している農業者に対し、有機農業の栽培技術研修を実施することで、有機農業の基盤を強化します。
- ② レストラン等での販売促進イベントや新商品の開発、学校給食への提供を通して、消費者の認知度向上や新たな販路開拓を行います。



学校給食における有機農産物の
利用推進のための研修

5 生産者の取組紹介

宮崎市有機農業推進協議会

- 活動：自然生態系の機能を生かした栽培技術の普及と健全な生態系や生育環境に配慮した環境保全型農業を推進し、有機農業者と消費者間の連携を深めるとともに、環境保全と地域社会に寄与する活動を行っています。
- 目標：全会員の環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）取得



6 問い合わせ先

宮崎県農業普及技術課
宮崎市農政企画課

TEL: 0985-26-7134
TEL: 0985-21-1785

50 宮崎県綾町

設定区域 全域

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

綾町では、自然生態系農業の推進に関する条例の制定や2012年ユネスコエコパークへの登録など、自然と人が共生する持続可能なまちづくりや食の安全と健康の増進に取り組んできました。また、綾町が有機JAS登録認定機関となることで、申請にかかる生産者の負担等を軽減するなど、有機農産物（主に露地野菜）の生産拡大に努めています。



綾の照葉大吊橋



綾町

2 地域の課題

農業従事者の高齢化による担い手不足及び耕作放棄地の拡大が深刻化している。また、有機農産物に対する消費者の理解醸成を図ることが課題となっている。

3 特定区域が目指す姿

有機農業の生産技術の確立・普及、新規就農者の育成・確保・定着、消費者への啓発や理解醸成、販売ルートの確立など有機農業を軸とした地域活性化を図り、環境に優しい持続可能な有機農業のまちを目指します。

4 生産者の取組の支援

- ① 「綾町自然生態系農業推進会議」を核として取組を推進します。
- ② 「綾オーガニックスクール」で技術的指導を行い、遊休農地の整備と合わせて、有機農業を実施するほ場の確保・団地化を行います。
- ③ 学校給食への提供を通した普及活動や、「綾手づくりほんものセンター」での取扱量の拡大を図り、供給体制の強化を行います。



オーガニックスクールでの研修

5 生産者の取組紹介

合同会社綾オーガニックワークス

- ・オーガニックスクールで実践的な技術指導を行い、10年後にスクールの卒業生20人を目指しています。
- ・特定区域を設定することで、綾町が環境に優しい有機農業を実践している事を全国の消費者にアピールし、有機農産物を購入してもらうことで、地域活性化につながることに期待しています。



6 問い合わせ先

宮崎県農業普及技術課
綾町農林振興課

TEL: 0985-26-7134
TEL: 0985-77-0100

51 鹿児島県南種子町

設定区域 **長谷、島間、西之、上中、河内、下中地区**

有機

温室効果
ガス削減

先端技術

1 地域の特徴

南種子町は、鹿児島市から南へ153kmの種子島の南部に位置し、起伏の多い丘陵地帯で、中央部は黒ボク土の畑地帯と南東部は水田地帯が広がっています。

南種子町では9戸の農家が種子島の地域特産物である安納いもや早期水稻、さとうきびなどの有機栽培に取り組み、学校給食や町内の物産館、島外への出荷を行っています。



種子島宇宙センター



南種子町

2 地域の課題

農業従事者の高齢化による担い手不足及び遊休農地の拡大が深刻化しています。また、農地区画が狭小であるため、営農の大規模化の障壁となっています。

3 特定区域が目指す姿

消費者の有機農産物購入機会を増やすため、学校給食での活用促進や物産館を活用した地産地消の推進及び島外消費地への出荷を行い、南種子町産有機農産物のブランド化を推進していきます。

4 生産者の取組の支援

- ① 有機農業を志す生産者組織を設立し、(有)かごしま有機生産組合が持つノウハウを共有し、有機農業の実践者を確保・育成、栽培技術を平準化します。
- ② 遊休農地を解消し、有機農業ほ場を確保するなど、生産振興を重点的にを行い、産地を維持・活性化します。
- ③ 学校給食での提供や町内物産館、島外消費地への出荷により、ブランド化を推進します。



有機農業研修会の様子

5 生産者の取組紹介

早期水稻農家の実証栽培では、水管理システム、アイガモロボや水田除草機を使用した雑草管理を行うことにより、営農作業効率の向上につなげ、化学農薬不使用による環境負荷低減活動に取り組んでいます。

収穫されたお米を、町内小中学校の給食に周年で米飯提供することで、有機農業の普及（食育や環境教育）にもつながる取組となっています。



早期水稻農家（実演会）

6 問い合わせ先

鹿児島県農政部経営技術課
南種子町役場総合農政課

TEL: 099-286-2891
TEL: 0997-26-1111

優先項目

- (特定) 環境負荷低減事業活動実施計画
- 特定区域での取組

みどりの食料システム戦略推進交付金

- ・ グリーンな栽培体系加速化事業 ● ●
- ・ 有機農業拠点創出・拡大加速化事業 ● ●
(有機農業の栽培管理協定の締結により更に加算)
- ・ 有機転換推進事業 ((特定) 環境負荷低減事業活動実施計画の認定が必要)
- ・ SDGs対応型施設園芸確立・地域循環型エネルギーシステム構築 ● ●
- ・ バイオマスの地産地消・みどりの事業活動を支える体制整備 ● ●
(みどりハード対策：基盤確立事業実施計画の認定が必要)

農畜産業関係

- ・ 強い農業づくり総合支援交付金 ● ●
- ・ 国産野菜サプライチェーン連携強化緊急対策事業 ● ●
- ・ 国産小麦・大豆供給力強化総合対策のうち小麦・大豆生産技術向上事業 ● ●
- ・ 稲作農業の体質強化総合対策事業のうち米の超低コスト生産支援 ● ●
- ・ 国内肥料資源利用拡大対策事業 ● ●
- ・ 農地利用効率化等支援交付金 ●
- ・ 担い手確保・経営強化支援事業 ●
- ・ 新規就農者育成総合対策のうち経営発展支援事業 ●
- ・ 新規就農者確保緊急円滑化対策のうち世代交代・初期投資促進事業 ●
- ・ 経営継承・発展等支援事業 ●
- ・ 集落営農活性化プロジェクト促進事業 ●
- ・ 農山漁村振興交付金 ● ●
- ・ 持続的生産強化対策事業のうち
茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進、果樹農業生産力増強総合対策 等 ● ●
- ・ 畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業 ●
- ・ 畜産生産力・生産体制強化対策事業 ●
- ・ 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち施設整備事業及び機械導入事業 ●

研究開発・実証関係

- ・ 「知」の集積と活用によるイノベーションの創出 ● ●
- ・ 革新的新品種開発加速化対策のうち政策ニーズに対応した革新的新品種開発 ●

輸出促進関係・食品産業関係

- ・ GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト ●
- ・ 大規模輸出産地モデル形成等支援事業 ●
- ・ 食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備緊急対策事業 ●
- ・ コメ・コメ加工品輸出推進緊急対策事業 ● ●

林業関係

- ・ 林業・木材産業循環成長対策交付金のうち
高性能林業機械等の整備 ●、木質バイオマス利用促進施設の整備 ●、
特用林産振興施設等の整備 ●、コンテナ苗生産基盤施設等の整備 ●

他省庁予算

- ・ 学校給食地場産物・有機農産物使用促進事業【文科省】 ●
- ・ 地域脱炭素推進交付金【環境省】 ●

みどりの 食料システム戦略

食料・農林水産業の生産力向上と
持続性の両立をイノベーションで実現

MAFF
農林水産省